

御父は子らに語る

父なる神からマザー・ユージニア・エリザベッタ・ラバシオに
口述して書き取らせたメッセージ



by Associazione "Dio è Padre Casa Pater"

(ディオ エ パードレ カーサ パター協会著)

C.P.135 - 67100 L'Aquila ITALIA

Pro Manuscripto - 非売品

"御父は子らに語る"

© Associazione "Dio è Padre Casa Pater"

BP 135 - 67100 L'Aquila Italia

www.Dioepadre.org

contatti@Dioepadre.org

Imprimatur: † Petrus Canisius van Lierde

Vic. Generalis e Vic. Civit. Vaticanae

Roma, die 13 Martii 1989

出版許可：† ペトルス・カニシウス・ファン・リエルデ

バチカン市国の司教総代理

ローマ、1989年3月13日

表紙：
御父の出現後にマザー・ユージニアの依頼で描かれた絵の本物の写真

「神は私の父である!」この叫びは、^{こんにち}今日の世界でますます頻繁に聞かれるようになっていきます。人々は、神が本当に自分の父であることを認識しつつあります。

したがって、我々は、父なる神が、父を深く愛した被造物の一人、シスター・ユージニア・エリザベッタ・ラバジオを通して世界に与えた教会が長期に渡り徹底した審査を行った後承認した本メッセージを出版することを義務として感じているのです。

我々は、グルノーブルの前司教であるアレクサンドル・カイヨ神父が、自ら 1935 年に開始し、フランス各地から集められた専門家による 10 年間続いた教区調査の後に作成した証言を引用して、本作を紹介することが適切であると考えています。

調査に携わった専門家は、神学者であるグルノーブルの司教の総代理モンシニョール ゲリー神父、哲学と神学の分野で第一級の権威にランクされ、そのような事例を評価する専門家のイエズス会の兄弟であるアルバート神父とオーギュスト・バレンシン神父および、2 人の医学博士で、そのうちの 1 人は精神科医でした。

父が私たち一人一人に対して抱いておられる深い優しさを人々が理解できるように本メッセージの普及を聖母マリアに委ね、聖母とともに聖霊に呼び掛けましょう。

アンドレア・ダスカニオ神父
カプチン・フランシスコ修道会

マザー・ユージニア・エリザベッタ・ラバシオ

父なる神が「私の愛する娘」、「私の小さな植物」と呼ばれたマザー・ユージニアとは、どのような人だったのでしょうか。

私たちの考えでは、マザー・ユージニアは現代の最も偉大な光であり、御父があらゆる信仰の中心であり頂点であり、統一を霊性の最高の理想とする新しい教会の小さな預言者でした。彼女は、混沌としたこの闇の時代に、私たちが歩むべき道を見出すことができるように御父が世界に与えてくださった光です。

彼女は1907年9月4日、イタリアのベルガモ州の小さな町、サン・ジェルバシオ・ダッダ（現カプリヤテ・サン・ジェルバシオ）の農民の家庭に生まれました。彼女は初等教育しか受けていません。数年間工場で働いた後、SŒURS MISSIONNAIRES NOTRE DAME DES APÔTRES（使徒達の聖母の修道会）に入りました。そこで彼女の偉大なカリスマ性が発揮され、わずか25歳で修道会の総長に選出されました。

彼女の霊的な資質とは別に、彼女の社会的分野での仕事だけをみても、彼女が歴史に名を残すには十分だったでしょう。彼女は12年間の宣教活動中に、アフリカ、アジア、ヨーロッパの最も人里離れた場所のそれぞれに診療所、学校、教会を備えた70か所以上のセンターを開設しました。ハンセン病を治療する世界初の薬を、熱帯植物の種子から抽出し発見したのも彼女でした。この薬はその後、パリのパスツール研究所で研究開発されました。

彼女は、彼女の志を継ぎ、彼女によって築かれた基礎を構築したハンセン病患者の使徒と見なされているラウル・フォレローの使徒職を奨励しました。1939年から41年にかけて、彼女はアゾプテ（コートジボワール）に「ハンセン病患者の都市」を着想、計画を立て、実現させました。この施設は、20万平方メートルの敷地を持つハンセン病患者の看病のための広大なケア・センターでした。この施設は、現在でもアフリカのみならず世界でも有数のハンセン病患者のための施設となっています。この功績が認められ、フランス共和国は、1935年から1947年までマザー・ユージニアが総長を務めた使徒達の聖母の修道会に、社会福祉事業に対する最高の国家的栄誉を授与しました。

マザー・ユージニアは1990年8月10日に御父のもとに帰天しました。私たちに残された彼女の最も重要な遺産は『御父のメッセージ』（「御父は子らに語る」）です。これは御父である神が個人的になされた唯一の私的啓示であり、10年にわたる最も厳格な検証を経て教会によって本物と認められました。父なる神が（1932年に）マザー・ユージニアに、彼女にとって全く未知の言語であるラテン語で口述したことは特筆に値します。1981年、私たちはこのメッセージを驚くべき成り行きで知ることになり、啓示の50周年記念を迎える1982年にイタリア語で出版しました。

本メッセージによってもたらされた多くの恵みの奇跡によって、私たちは無償でこのメッセージを特に刑務所、兵舎、病院などで広めることになりました。主が与え

てくださった支援者のおかげで、フランス語、英語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、アルバニア語、ポーランド語、ルーマニア語、クロアチア語、チェコ語、スロバキア語、ハンガリー語、ロシア語、ウクライナ語、中国語、韓国語、アラビア語、タミル語、グジャラート語、マラティー語、アンハリ語で出版することができました。現在、他の言語でも翻訳されています。

本文の冒頭に、グルノーブルの司教、モンシニョール・アレクサンドル・カイヨ神父の結論を転載します。司教の証言の全文は、小冊子の 38 ページに掲載されています。

マザー・ユーヅニアの事例に関する教会法に基づく調査で作成された 報告書に続くグルノーブル司教 アレクサンドル・カイヨ神父の結論

私の魂と良心の命じるところに従い、そして教会に対する私の責任の最も鋭い感覚をもって、私は超自然的で神の介入が、事実の唯一の論理的かつ満足のいく説明であるように思われることを宣言します。

事例の周囲のすべての特徴から切り離されても、本質的な事実は、私には気高く、高尚で、超自然的に豊かなものに思われます。つまり、謙虚な修道女が、イエスが教えた通り、そして教会がその典礼に謳ったような真の父への信心に魂を呼びかけたということです。これには驚くべきことは何もなくむしろ非常に単純で、確固たる教義に従っているだけです。

このメッセージに付随する奇跡的な事実は、主要な出来事から切り離すことができても、その価値はまだ全体が保たれます。特別な祭日の案に関して、教会は、教理上の理由からシスターに関わるこの特定の事例とは別に考えられるかどうかを宣言することでしょう。

私は、この修道女の使命が本物であることの根本的な証拠は、彼女が明らかに私たちに思い出させるように運命づけられた美しい教義を本人の生き方で実践している方法によって示されていると信じています。

私は、彼女にその仕事を続けさせるのが適切だと考えています。私は、このすべてに神の手がかかっていると信じています。10年にわたる調査、熟考、そして祈りの結果、このような神の愛の感動的な顕示の場として私の教区を選んでくださった父なる神を私は祝福します。

†アレクサンドル・カイヨ

メッセージが与えられた時点でグルノーブルの司教

御父からのメッセージ

御父からのメッセージ

第一部

1932年7月1日

主イエス・キリストの尊い御血の祭日

ここに、ついに、天の御父が約束された永遠に祝福された日がやって来ました。

今日、準備してきた長い日々が終わり、私の御父とすべての人の御父の到来を近く、とても身近に感じられます。

数分の祈りの後に、なんとという霊的な喜びでしょう。私は主を見、主の声を聞きたいという願望に圧倒されました。

愛に燃える私の心は大きな確信をもって開かれ、これまで私は誰に対してもこれほどまでに信頼を寄せたことがなかったことに気づきました。

父のことを想うと、私は狂おしいほど嬉しくなりました。

そして、ついに歌声が聞こえてきました。天使たちがこの喜びの到来を告げに来たのです。その歌はとても美しかったので、私はすぐにそれを書き留めることにしました。

このハーモニーが止むと、ケルビムとセラフィムという選民の行列が、創造主であり私たちの御父である神とともに行進してきました。

私はうつ伏せになり、顔を地面につけて、自分の虚無に沈みながら、マニフィカトを唱えました。その直後、御父は私に、彼の近くに座るようにと、彼が人々に語ると決められたことを書き記すようにと言われました。

彼に同行していた天の全廷臣は消え去って、御父だけが私のもとに残り、座る前に御父は言われました。

「すでにあなたがたに言ったことを、今もう一度言う。人類に私の愛を証しするため私の最愛の息子を再度与えることはできない。私は今、彼らを愛し、この愛を彼らに知らせるために、彼らの姿、彼らの貧しさを帯びて、彼らの間に来ているのだ。

見なさい。今、私は冠とすべての栄光を捨て、普通の人々の姿になっている。」

王冠と栄光を足元に置き、普通の人々の姿になられた後、世界の地球儀を手に取り、それを彼の胸に抱えながら、左手で支えました。そして、私の隣に座られました。私は、彼の訪れ、身にまとった姿、そして彼の愛について、ほんの少ししか言うことができません。無知な私には、主が私に啓示されたことを表現する言葉がありません。

「この一家に、そして全世界に平和と救いを！私の力と愛と聖霊が人々の心に触れ、すべての人類が救いに立ち返るため、人類を愛し救おうとする父のもとに来ることができるように。」と彼はおっしゃいました。

わが教皇、ピウス 11 世に、今が救いと祝福の時代であることを理解させよう。我が子らを現世で助け、そして永遠の幸福に向けて準備するためにやって来る父への子どもたちの注意を喚起するこの機会を逃さないように。

人々の間で私の業を始めるためにこの日を選んだのは、今日がわが子イエスの尊い血の祝日だからである。私が始めようとしている仕事が全人類の間で大きな実を結ぶように、この血に浸るつもりである。

これこそ、私の来訪の真の目的である。

1. 被造物が私に対して抱いている過剰な恐れを払拭し、わが子たち、すなわち、現在と未来の全人類に知られ愛されることが、私の喜びであることを示すためにやって来るのである。

2. 私は人々と世界諸国に希望をもたらすためにやって来るのだ。はるか昔に希望を失ってしまった人がどれくらいいるだろうか。この希望により、彼らは平和と安心のうちに生き、彼らの救いのために努めるようになる。

3. 私は、人々の信頼が彼らの父である私への愛とともに高まるよう、ありのままの自分を知らせるためにやって来ている。私の唯一の関心事は、すべての人々を見守り、彼らを私の子供として愛することである。

画家は自分の描いた絵に思いを馳せることを喜びとする。同じように、私の創造の最高傑作である人々の間にやって来ることは、私の喜びであり、楽しみでもある。

時間が迫っている。私は、私が彼らを愛していること、そして、彼らと一緒にいて、子供たちと一緒にいる父親のように彼らと話すことに最高の幸福を感じることを、できるだけ早く人々に知ってもらいたいと願っている。

私は永遠不変の神である。私が一人でいたとき、私の力のすべてを使って、私の姿のごとくに生き物を創造しようとすでに考えていた。しかし、その生き物が糧を得ることができるように物質的な創造が先に来なければならなかった、その時、私は世界を創造したのだ。空気、太陽、雨など、人間が生きていくために必要だと私が知っているものをすべてそこに満たした。

そして最後に人が創造された。私は自分の手仕事を喜んだ。人々は罪を犯すが、私の無限の寛大さが現れるのはまさにその時である。旧約聖書において、私は預言者たちを創り、人間の間に住まわせるために選んだ。彼らには、私の願い、私の悲しみ、私の喜びを伝え、彼らがそれをすべての人に伝えることができるようにした。

悪が拡大すればするほど、私の善は、無秩序を作り出している者たちに私の命令を伝えることができるよう、公正な魂たちとコミュニケーションをとるよう私を促した。そのため彼らをたしなめるため時には厳しくせざるを得なかった。彼らを罰するためではなく、彼らを悪から遠ざけ、彼らが恩知らずとなったために忘れ無視し

た父と創造主のもとへ導くためであった。その後、悪が人の心をあまりに圧倒するようになったので、私は苦難や財産の破壊、あるいは死によって人を浄化するために、この世に災いを送らざるを得なくなったのである。大洪水、ソドムとゴモラの滅亡、人間の人間に対する戦争などである。

私は、常にこの世で人間の中に留まりたいと願ってきた。だから大洪水では、当時、唯一正義の人であったノアのそばにいた。他の災難のときも、私はいつも一緒にいられる公正な人を見つけ、その人を通してその時代の人間の中で生きてきた。

私の人類に対する無限の善意により、世界はしばしばその腐敗から浄化された。私は、私が満足する特定の魂を選び続けた。なぜなら、その魂を通して、私の被造物である人間たちと一緒に幸せになることができたからである。

私は世界にメシアを約束した。私は彼の到来を準備するためにできる限りのことをし、彼の到来より何千年も前に、彼を象徴する姿の中に私自身を示したのだ。

このメシアは誰なのか？彼はどこから来るのか？地上で何をするのか？彼は誰を象徴しているのか？

メシアは神である。

神とは誰か？神とは、父と子と聖霊である。

彼はどこから来るのか？というよりむしろ、誰が彼に人類の間に来るように命じたのか？それは私、彼の父、神である。

この地上において、彼は誰を代表するのか？彼の父、神である。

彼はこの地上で何をするのか。父である神を知らしめ、愛されるようにする。

彼はこう言わなかったか？

「私は父の仕事に専念しなければならないことを知らないのか？」 "Nesciebatis quia in his quae Patris mei sunt oportet me esse?" (ルカ 2:49)

「私はただ父の御心を行うために来た」

「私の名によって父に求めるものは何であれ、父はあなたがたにくださる」

「あなたがたは、このように父に祈るべきである。『天におられる私たちの父よ...』」

そして、父をあがめ、父を人に知らせるため、他のところでも、彼はこう言った。

「私を見る者は父を見る」

「私は父の中にいて、父は私の中にいる」

「私を通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」 – "Nemo venit ad Patrem nisi per me" (ヨハネ 14:6)

「私と共にいる者は、父と共にいる」など。

人々よ、私が永遠に抱いている願いはただ一つ、人々に自分を知ってもらい、人々に愛されたいということである。私は彼らと永遠に共にありたいと願っている。

今、私が述べたこの願いの真正な証しを知りたいか？

もし、父として、兄弟として、親しい友人として、わが被造物である人間と共に住むためでなかったら、なぜ私はモーセに幕屋と契約の箱を建てるように命じたのか？これは私の熱烈な願いであった。にもかかわらず、彼らは私を忘れ、数え切れないほどの罪を犯して私を怒らせた。私はモーセに私の戒律を与えたが、それは彼らに、あらゆることにもかかわらず、彼らの父である神と、彼らを救うという神の唯一の望みを思い出させるためであった。彼らは戒めを守ることによって、彼らの現在と永遠の救いに常に心を砕いている、限りなく善良な父を思い出すはずであった。

しかし、このことが忘れ去られ、私がモーセに伝えた戒めを守ることはあまりにも負担が大きすぎると人々は考え、誤りと恐れに沈んでいった。彼らはより簡単に戒めを守るために、自分たちの気まぐれで他の掟を作り上げた。彼らは少しずつ私を大げさに恐れるにつれ、ますます私を忘れ、私に暴虐の限りを尽くした。

しかし、私の子供たちであるこの者たちに対する私の愛は、決して絶えることはなかった。長老も預言者も私を人々に知らせ、愛させることができなかったことを悟ったとき、私は自ら降りて来ることを決意した。

しかし、どのようにして彼らの間に入ることができるだろうか。私の神性の第二の人格である私自身が来る以外に方法はなかった。

人々は私を知るだろうか？ 私に耳を傾けるだろうか？

未来において、私に隠されたものは何もなかった。私自身がこの二つの質問に答えたのだ。

「彼らは私の近くにいても、私の存在を無視するだろう。私の息子が彼らのためにするすべての善にもかかわらず、私の息子において、彼らは私を残酷に扱うだろう。私の息子において、彼らは私の悪口を言い、私を十字架につけて、私を死なせるであろう。」

このようなことのために、私はやめるべきだろうか。いや、わが子供たち、つまり人間に対する私の愛はあまりにも大きい。

私はそこでやめたりしなかった。私があなたがたを、いわば、私の愛する子よりも、いや、私自身よりも愛していたことを、よく理解してほしい。

もし、わが被造物の一人が、わが息子と同様の生と死によって他の人々の罪を償うに十分であったとしたら、私はためらったであろう。私があなたに話していることはあまりにも真実なのだ。なぜか？なぜなら、わが子において私自身が苦しむのではなく、愛する被造物を苦しませることで、私の愛を裏切ることになるからだ。私は決してわが子たちの苦しみを望んだりしなかつただろう。

簡潔に言えば、これがわが息子を通して人々の間に現れるまでの私の愛の物語である。

ほとんどの人は、これらすべての出来事について知っているが、愛がそのすべてにおいて指導的な原理であるという本質的なことを把握できていない。

そう、愛である。これこそ、私があなたがたに印象づけたいことなのである。今、この愛は忘れ去られている。私は、あなたがたにそれを思い出してほしい。そうすれば、あなたがたは、ありのままの私を知ることができ、あなたがたをととても愛している父を奴隷のように恐れることはないだろう。

この物語では、我々は1世紀の最初の日にいるに過ぎないのだが、私はそれを20世紀の現在にまで持っていきたいのだ。

ああ、私の父なる愛は、いかに人間から忘れられてきたことか。しかし、私はあなたがたをととても優しく愛している。わが子において、つまり、人となったわが子という人格において、私が何をしなかったというのか！神性は人間性というベールに包まれ、縮小され、貧弱になり、屈辱を受ける。わが子イエスとともに、私は犠牲と労苦の生涯を送った。私は彼の祈りを受け、人間が常に正義のもとに歩み、安全に私にたどり着くことができるよう、明確に示された道を持つようにしたのである。

確かに私は私の子たちの弱さを理解することができる。そのため、私は私の息子に、墮落した後に再び立ち上がるための手段を彼らに与えるよう頼んだ。これらの手段は、彼らがまだ私の愛する子であり続けることができるように、彼らが罪から身を清めるのを助けるものである。それらは主に、7つの秘跡である。そして、あなたがたの墮落にもかかわらず、救いを確保する最大の手段は、十字架、すなわち、あなたがたが望むのであれば、懺悔の秘跡とミサの聖なる犠牲において刻々とあなたの上に注がれるわが息子の血なのである。

私の親愛なる子供たちよ、私は20世紀もの間、特別な恵みをもってこれらの贈り物をあなたがたに惜しみなく与えてきたが、その結果はなんと悲惨なものであったことか。わが被造物のうち、わが息子によってわが愛する子となった者たちのなんと多くが、たちまちの内に永遠の深淵に身を投じてしまったことだろう。本当に、彼らは私の無限の善を知らなかったのだ、私はあなたがたをととても愛している。

少なくとも、あなたがたに私自身が語りかけ、あなたがたに私の愛を認識させるために来ていることを知っているあなたがたは、あなたがた自身のために断崖絶壁から身を投げてはならない。私はあなたがたの父なのだ！

私を父と呼び、私への愛を示した後で、私の中にあなたがたを滅ぼそうとするような硬く無神経な心を見出すことがあり得ようか。いや、いや、信じてはいけない。私は最高の父である！わが被造物の弱さはわかっている！私のもとに来なさい！信頼と愛をもって来なさい！あなたが悔い改めれば、私はあなたを赦すだろう。たとえばあなたの罪が泥のように不快なものであっても、あなたの信頼と愛は、私にその罪を忘れさせ、あなたは裁かれることがないだろう。私が正義であることは事実であるが、愛はすべてを償うのである！

聞きなさい、わが子たちよ。比較してみよう。そうすれば、私の愛を確信するだろう。私にとっては、あなたがたの罪は鉄のようであり、あなたがたの愛の行いは金のようなものである。もし、あなたが 1000 ポンドの鉄を私に与えたとしても、たった 10 ポンドの金にはかなわないだろう。つまり、ほんの少しの愛で、大きな罪悪を償うことができるのだ。

これは、わが子たち、人間たち、例外なくすべての人たちに対する私の裁きについての非常に快活な見方の一つである。あなたがたは私のもとに来なければならない。私はあなたのすぐそばにいるのだ。あなたがたは私を愛し尊ばなければならない。そうすれば、あなたがたは裁かれることはない。いや、むしろ、裁きは無限の慈悲に満ちた愛によりくだされるだろう。

疑うなかれ。もし、私の心がこのようでなかったなら、世界が罪を犯すたびに、私はすでに世界を滅ぼしていたことだろう。しかし、あなたがたが見たように、私の保護はあらゆる瞬間に、恩寵と恩恵によって顕現している。このことからあなたがたはすべての父の上に立つ父が存在し、あなたがたを愛し、あなたがたが望むのなら、絶え間なくあなたがたを愛し続けるのだと結論づけることができる。

私は 2 つの方法、十字架と聖体を通してあなたがたの間にやって来る。

十字架は、私の子供たちの間に降りてくる私の方法である。なぜなら、十字架を通して、私は私の息子にあなたがたの罪を贖わせたのだから。そしてあなたがたにとって、十字架はわが子へと昇る道であり、わが子から私へと昇る道である。それなしには、あなたがたは決して私のもとに来ることはできなかった。なぜなら、人間は罪を犯すことによって、神からの分離という罰を自ら招いたからだ。

聖体において、私は父とその家族のように、あなたがたの間に住んでいる。私はわが子が聖体の秘跡を制定し、すべての聖櫃を私の恩恵、私の富、私の愛の器とし、それらをわが子である人間に与えるようにと望んだのである。

私の力と無限の慈悲を絶え間なく降り注がせるのは、常にこの 2 つの手段によるのである。

...さて、私はわが子イエスが人々の間で私の代理となり、彼を通して私が人々の間で絶えず生きていることを示した。私はまた、わが聖霊を通してあなたがたの間にやって来ることを示したいと思う。

私の神性のこの第三の位格の働きは、静かに行われ、しばしば人間はそれに気づかない。しかし、私にとっては、聖櫃だけでなく、恩寵を受けているすべての人々の魂の中に、私の王座を確立し、そしてわが子を愛し、守り、助ける真の父のように、常にそこに住むということは、非常にふさわしい生き方なのである。私の神聖で父性的な心が、すべての人、正義の人および罪深い人の両方から知られ、愛され、尊敬されたいという無限の願いをまだ誰も理解していない。これらは、私が人間から敬意を持って受け取ることを望む三つの贈り物である。そうすれば、最も心の麻痺した罪人に対しても、常に慈悲深く、善良であることができるだろう。

人間がその父、創造主、救い主としての私にふさわしい特別な栄誉を与えるために、私はアダムからイエスの養父であるヨセフまで、そしてヨセフの時代から今日まで、わが民のために何をしてこなかったというのか。私はまだ、私が強く念願し、切に望んでいるこの特別な崇敬を受けていないのである！

出エジプト記には、神は特別に崇敬されなければならないと書かれている。特にダビデの詩篇には、この教えが書かれている。私自身がモーセに与えた戒律の中で、「唯一の神を崇拝し、完全に愛せよ」と私は強調した。そう、愛することと敬うことは、共にあるものだ。私はあなたがたに多くの恩恵を与えたので、あなたがたは特別な形で私に敬意を表さなければならない。

私はあなたがたに命を与え、私の姿に似せてあなたがたを創造しようと望んだ。それゆえ、あなたの心は私の心と同じように敏感であり、私の心はあなたの心と同じように繊細である！

もし、あなたの隣人が、あなたを喜ばせるために小さな願いを聞いてくれたとしたら、あなたは何もしないだろうか？最も無頓着な人でも、そのような人に永遠に感謝することだろう。誰でも受けた奉仕のお返しとして、最大の喜びを与えるものを探そうとするだろう。そう、もしあなたが私の要求通りに私を敬うという小さな願いを聞いてくれるのなら、私はあなたがたにもっと感謝し、あなたがたに永遠の命を保証するだろう。

私は、あなたがたがわが子において私を敬っていること、そして、わが子を通して私にすべてを捧げることができる者がいることを認めるが、それは実にごくわずかである！しかし、わが子を敬うことは、私を敬わないことだとは思わないでほしい。私はわが子のうちに生きているのだから、あなたがたは確かに私を敬っているのだ。したがって、彼の栄光となるものはすべて、私の栄光にもなるのである！

しかし、私は人類が特別な信心をもって父である創造主を敬うのを見たいのである。私を敬えば敬うほどますますわが子を敬うことになる。なぜなら、わが子は、私の意志にしたがって、自分を遣わした父をあなたがたに知らせるために言葉の化身となり、あなたがたの間に現れたからである。

もしあなたがたが私を知るようになれば、私と私の愛する息子を今よりもっと愛するようになるだろう。贖罪の神秘によってわが子となったわが被造物のうち、わが息子を通してすべての人のために用意した牧草地にいない者がいかに多いかを見よ。そして、あなたがたも知っているようにどれほど多くの者たちが、これらの牧草地の存在にまだ気づいていないことか。そして、私が存在を知っている私の手による被造物のなんと多くの者たちが、彼らを形づくったこの手さえも知らないのである。

ああ、私は、あなたやこれらの被造物にとっても、私の恩恵によって、いかに全能の父であるかをあなたに知らせたいのだ！私の律法を通して、私は彼らの人生がより甘美なものとなることを望んでいる。私の名によって彼らのところへ行き、私のことを彼らに語ってほしい。

そして、彼らを創造した父が、所有している宝を彼らに与えたいと願っていることを伝えなさい。とりわけ、私が彼らのことを考え、彼らを愛し、彼らに永遠の幸福を与えたいと願っていることを伝えなさい。

ああ、必ずや、人の改心は早く訪れるだろう。

信じてほしい。もしあなたがたが初代教会の時代から、特別な信心をもって私を敬い始めていたなら、20世紀後には、偶像崇拜や異教や多くの偽りの邪悪な宗派に生き続け、永遠の火の深淵に向かって盲目的に走っている者はほとんどいないであろう！そして、見よ。どれほどの仕事が残されていることだろう。

私の時が来たのだ！人類を創造した私は彼らの父となり、次に彼らの救い主となり、最後に彼らの永遠の喜びの対象となることができるように私は人に知られ、愛され、褒め称えられなければならない。

これまで私は、あなたがたがすでに知っていることを話してきた。私は、あなたがたが信じているような恐ろしい者ではなく、非常に良い父であること、また、私は今生きているすべての人々と、世の終わりまで私が創造する人々の父であることをあなたがたがますます確信するよう思い出させたかったのである。

私は知られ、愛され、そして何よりも崇められることを望んでいることを知りなさい。

すべての人、とりわけ罪人、病人、瀕死の人、そして苦しむすべての人に対する私の無限の善意を誰もが認識するよう願っている。私が望むことはただ一つ、彼らすべてを愛し、私の恵みを与え、彼らが悔い改めるときに赦し、そして何よりも、すべての人が救われ、わが選民の中に数えられるように、私の正義をもってではなく、私の慈悲をもって彼らを裁くことを知らしめなさい。

この短い説明の締めくくりとして、私はあなたがたに永遠の結果をもたらす約束をする。それはこうである。**信頼と愛をもって、私を父と呼びなさい。そうすれば、あなたはこの父から、愛と憐れみをもってすべてを受け取ることができる。**

あなたの霊的な指導司祭である私の息子が、私の栄光のために働き、人々が、私が知ってほしいと願うことについての説明を、何の付け加えもなく読むことができるように、私があなたに口述したことを一文一文書き記すことができるように願っている。

私は日々、人々に対する私の願い、私の喜び、私の悲しみについて、そして何よりも、私の無限の善意と優しく慈愛に満ちた愛を人々に示すために、あなたに語りかけるだろう。

また、毎日30分間、私を慰め、私を愛することができるように、あなたの上長には、あなたがたが自由な時間を私と過ごすことを許可してもらいたい。そうすれば、人々の心、わが子たちの心が、今あなたがたに明らかにしたこの献身を広めるために働くようになり、子らに愛されることを望むこの父に対する大きな信頼が得られるようになる。

この取り組みをできるだけ早くすべての国に広げることができるように、その普及を任された者が少しも不謹慎な行為をすることがないように、私はあなたがたが回想の精神で日々過ごすことを願う。人とあまり話をしなくても幸せであろう。たとえ彼らの中にも、心の中で私に語りかけ、私の話に耳を傾けるのだ。

これは、私あなたがたに望むことでもある。私が時々あなたに話しかけると、あなたは特別な小さな日記に私の秘密を書くのだ。しかし、私はこの日記を通してすべての人に語りかけるつもりである。私は母親とその子供たちよりも親密に彼らと共に生きている。

人間の創造以来、私は一瞬たりとも彼らのそばで生きることをやめたことはない。創造主であり、父であるからこそ、私は彼らを愛さなければならないと感じている。私が彼らを必要としているのではなく、父であり創造主である私の愛が、このように人間を愛する必要性を感じさせているのである。したがって、私は人間の近くに住み、どこにでも彼らについて行き、あらゆることで彼らを助け、あらゆるものを供給する。

私には彼らの必要性、彼らの労苦、彼らのすべての願望が見える。私の最大の幸福は彼らを助け、彼らを救うことにある。

人々は私を、全人類を地獄に投げ込もうとする恐ろしい神だと信じている。世の終わりに、彼らが失ったと信じていた多くの靈魂が、選ばれた民の間で永遠の至福を享受しているのを見たら、どれほど驚くことだろう。私はすべての被造物が、彼らを見守る父の存在を確信し、彼らに前もって地上で永遠の幸福を味わってほしいと願っている。

母親は、自分がこの世に生んだ小さな生き物を決して忘れない。私がすべての被造物を記憶していることは、さらに素晴らしいことではないだろうか。

だからもし母親が、私を与えた小さな生き物を愛するなら、私は彼女以上にその子を愛する。なぜなら私その子を創ったからである。たとえ、母親が何らかの障害のためにその子をあまり愛さなくなったとしても、逆に、私はその子をさらに愛するだろう。あとになって、母親はその子のことを忘れて、特にその子が面倒を見なくてもいい年齢になったために母親がめったに思い出さなくなったりしても、私は決してその子を忘れることはない。私はいつもその子を愛し、たとえその子もはや父であり創造主である私を覚えていなくても、私は依然としてその子を覚え、その子を愛するだろう。

私はすでに、この地上でも永遠の幸福を享受してほしいとあなたがたに話したが、あなたがたはまだ私が言ったことの本当の意味を理解していない。それはこうである。もしあなたがたが私を愛し、私を父という甘美な名で呼ぶのなら、あなたがたは今ここで、永遠の幸福をもたらす愛と信頼のうちに生き始め、天国で選ばれた民の仲間とともに歌うことになるであろう。これは永遠に続く天国での幸福の前触れではないだろうか。

それゆえ、私は人間に、私が人間のすぐそこにいること、私がともにいなければ人間は生きられないこと、私が人間と同じように生きていることをよく思い起こしてもらいたい。人間が不信心であっても、私はいつも人間の近くに居続ける。

ああ、この私の計画が実現されるのを、私はどんなに願っていることだろう。今まで人間は、彼らの父である神に、私がこれから話すような喜びを与えようとは考え付きもしなかった。私は、人間とその天の父との間に、人間が私の偉大なる善意に付け込むことなく、親しみと繊細さの真の精神をもって、大きな信頼が築かれるのを見たいのである。

私は、あなたがたが必要としていること、望み、そしてあなたがたの心のすべてを知っている。しかしもしあなたが、父を完全に信頼する息子のように私のもとにやってきて、自分の必要としていることを打ち明けるのを見たら、私はどんなに嬉しく、感謝することだろう。もし、あなたがたが私に頼んだなら、ほんの小さなことでも、大きなことでも、どうして断ることができようか。たとえ私の姿が見えなくても、あなたの身の回りに起こる出来事の中に、私がとても近くにいるのを感じないだろうか。

私を見ずとも、私を信じたことで、あなたがたはいつかどんなに報われることだろう。

今、私があるあなたがたと直接会い、あなたがたに話しかけ、あらゆる方法で絶え間なく私があるあなたがたを愛し、特別な献身をもって知られ、愛され、榮譽を受けたいと言ひ繰り返しているのに、私がこのメッセージを口述している一人の人間を除いては、誰も私を見ることができない。全人類の中でたった一人である。それでも、私はあなたがたに話しかけているのだ。私が見ている彼女の中で、私が話している彼女を通して、私はあなたがた全員を見ているし、あなたがた一人一人に話しかけているのだ。

私は人々が私を知ることができ、私が一人一人の近くにいることを感じるようにしたい。人々よ、私が人類の希望でありたいと願っていることを忘れないでほしい。すでにそうではないか？もし私が彼らの希望でなかったら、人類は途方にくれてしまうだろう。平和と信頼と愛が人々の心に入り、天地の父と触れ合うように、私がそのように認識されることが必要である。

私を、人々が絵や本で描いているような恐ろしい老人のように考えてはならない。そうではないからだ。私は、わが子とわが聖霊よりも若くもなく、老いてもいない。それゆえ、私は、若い者から年配の者まで、すべての人に、私を父や友という親しみのある名で呼んでほしいのだ。私はいつもあなたがたと共にあるからだ。私は、あなたがたを私に近づけるために、私自身をあなたがたに近づけている。親たちが、子供たちにしばしば父の名で私を呼ぶように教えるのを見たら、私の喜びはどれほど大きいことだろう。これらの若い魂に、私への信頼と子としての親への愛が吹き込まれるのを、私はどんなに見たいことだろう。私はあなたがたのためにすべてを行った。あなたがたも、私のために応じてくれないか。

すべての人が絶対的な確信をもって「私たちには、限りなく善良で、限りなく豊かで、限りなく慈悲深い御父がおられます。私たちのことを考え、私たちに寄り添ってくださいます。私たちの世話をし、私たちを支えてくださいます。私たちが求めるなら、必要なものをすべて与えてくださいます。御父の富のすべては私たちのものであり、私たちは必要なものをすべて手に入れることができます。」を言えるようになるため、私はすべての家庭の中に、私の領地があるかのように私の家を作りたい。

私は、あなたがたが必要なものを私に求めるためにこそ、そこにいるのである。「求めよ。そうすれば与えられるだろう。」私の父としての善意により、私はあなたがたにすべてを与えよう。ただし、すべての人が私を真の父として見なし、私が実際にそうであるように、家族の中で生きていることが条件である。私はまた、すべての家族が、後に私の「小さな娘」に見せる絵を、目立つように飾ってくれることを望んでいる。私は、すべての家族がこうして私の特別な保護のもとに身を置き、私をより容易に敬うことができるようになることを望む。そこでは毎日、家族は必要なこと、仕事、悲しみ、苦しみ、願望、そして喜びを私と分かち合うことになる。父は自分の子らに関するすべてのことを知らねばならぬからだ。

私はそこにいるのだからもちろん知っているのだが、私は単純さを好む。私は、あなたがたの状態に自分を合わせる方法を知っている。幼い者には自分を小さくし、大人には自分を大人にし、老人にも同じようにすることによって、彼らを聖別し私の栄光のために私が伝えたいことを、すべての人が理解できるようにする。

あなたがたのように自分を小さく弱くしたわが息子において、あなたがたは、私が言っていることの証しを持っていないのか？私が今、ここであなたがたに語りかけているのを見ても、あなたがたはまだそれを持っていないのか？私はあなたがたに語りかけ、私の伝えたいことを理解させるために、あなたがたのような哀れむべき被造物を選んだのではなかったか？そして今、私は自分自身をあなたがたのようにしていないだろうか？

見よ、私は私の王冠を私の足元に置き、世界を私の胸に抱きしめているのだ。私は天にある私の栄光を置いて、すべての人のためのすべてのものとなるため、貧しい人と共に貧しくなり、豊かな人と共に豊かになるためここに来た。私は優しい父として若者たちを守りたい。世の中にはたくさんの悪がある。これらの若くて哀れな魂は、悪徳の魅力に誘惑され、少しずつ、完全な破滅へと導かれている。悪を避けられるよう人生において特に世話をしてくれる人を必要としている者は、私のもとに来なさい。私は、他のどんな生き物ができる以上にあなたがたを愛している父である。私の近くに、とても近くに避難しなさい。あなたがたの思いと望みを私に打ち明けなさい。私はあなたがたを優しく愛そう。私はあなたの現在のために恵みを与え、あなたの未来を祝福する。15年、25年、30年経っても、あなたを創造した私はあなたを忘れないと確信できる。来なさい！私はあなたがたが私のような優しくして限りなく良い父をととても必要としているのがわかる。

後で話すことができる他の多くの関連事項に触れずに、私は今、特に私が選んだ魂たちである司祭や修道者たち、あなたがた、愛する私の愛の子供たちに話したいことがある。私はあなたがたのために、偉大な計画を持っているのだ。

教皇へ

我が最愛の息子、我が司祭であるあなたに、他の誰よりも優先して、この仕事をあなたの手に委ねる。それはあなたのすべての仕事の中で第一に位置づけられるべきものであり、悪魔によって人間の中に吹き込まれた恐怖が故に、今だからこそ達成されるであろう。

ああ、この計画の規模、その偉大さ、広さ、深さ、高さを、どれほどあなたに知ってもらいたいことだろう。私が人類のために抱いている計り知れない願いを、今、そして将来にわたって理解してほしい！

私がどれほど人々に知られ、愛され、特別な信心をもって敬意を払われることを望んでいるのか、あなたがたが知ってさえいれば！ 私はこの願いを永遠の昔から、最初の人類を創造したときから抱き続けてきた。私は、特に旧約聖書の中で、さまざまな時にこの願いを人々に告げ知らせてきた。しかし、人間はそれを理解することはなかった。今、この願いが、世界中の私の被造物の中で、実現できれば、私はすべての過去を忘れることができる。

私は、わが被造物の中で最も哀れな者に身を低くして、彼女に語りかけ、私が人類の中で達成したい計画の壮大さを彼女が認識できなくても、彼女を通じてすべての人に語りかけるのだ。

私は彼女と神学について語ることはできない。なぜなら、彼女は私を理解できないために、必ず失敗するからである。私は、無垢な純真さを通して私の計画を実現するためにこのようにしているのだ。しかし、今度はあなたがこの仕事を吟味し、速やかに成就させる番である。

特別な信心をもって知られ、愛され、栄誉を受けるために、私は何も特別なことを求めてはいない。私の願いはただこれだけだ。

1. ある一日、あるいは少なくとも日曜日を、「全人類の父」の称号のもとに、特別な方法で私を称えるための奉獻を望む。

この祝日のために、私は特別なミサと祭儀を希望する。聖書の中にその祈りを見つけることは難しくない。もしあなたがこの特別な信心を日曜日に捧げることを望むなら、私は8月の第一日曜日を選ぶ。もし平日を望むなら、いつも同じ月の7日目にしてほしい。

2. すべての聖職者がこの信心を広めるよう努め、そして何よりも、私は現在も未来も常に人々の父であるように、すなわち、すべての父の中で最高に優しく、最も愛すべき存在であることを、人々に知らせることを望む。

3. すべての家庭、病院、研究所、作業場、兵舎、政治家の会議室、要するに私の被造物がいるところならどこでも、たとえそれがたった一人しかいないところであっても、あらゆる場所で私を連れてくることを望む。

目に見えない私の存在の具体的なしるしは、私が本当に存在していることを絵で示されることを私は望む。そうすれば、すべての人は、父のまなざしのもとですべての行動を行うようになり、私自身は、私が創造しただけでなく養子にした被造物を眼下に置くことになるのだ。このようにして、わが子たちは、いわば、その優しい父のまなざしの下にいることになる。今でも、私は確かにどこにでもいるが、目に見える形で表現されることを望んでいる！

4. 年間を通じて、聖職者と信徒が、通常の仕事をおろそかにすることなく、私の栄誉のために何らかの敬虔な行為を行うことを望む。

私の司祭たちに、あらゆる場所、あらゆる国に、恐れることなく出向かせ、私の父なる愛の炎を人々にもたすように。そうすれば、不信心者の間だけでなく、真の教会に属さないあらゆる宗派の間でも魂は啓発され、打ち勝つだろう。そう、私は、わが子であるこれらの人々にも、彼らの前に輝くこの炎を見て、真理を知り、それを受け入れ、キリスト教のすべての美德を実践してほしいのだ。

5. 神学校、修道院、学校、老人ホームにおいて、特別な形で私への敬意を表されることを望む。幼い者から老人に至るまで、すべての人が私を父、創造主、救い主として知り、愛することができるように。

6. 司祭たちは、私が人々から受けることを望む礼拝について、私がかつて述べたこと、そして今まで知らされていなかったことを聖書の中に探し求めることに取り掛からせなさい。彼らの働きにより、私の願いと私の意志をすべての人に知らしめ、私が人々に伝えたいこと、特に司祭、修道士、修道女にはっきりと伝わるように。世界のどの者たちよりも、私に多大な敬意を払うために私が選んだ魂である。

もちろん、私があなたに明らかにした人類に対して抱くこれらの望みを完全に実現するには、時間がかかることだろう！しかし、いつの日か、私の愛の働きのために自らを捧げる寛大な魂たちの祈りと犠牲によって、そう、いつの日か私は満足するのであろう。

私の愛する息子よ、私はあなたを祝福し、あなたが私の栄光のために行うすべてに、100倍の報いを与えるだろう。

司教へ

私の子アレキサンダーよ、私の願いがこの世で実現されるよう、あなたにも一言を言うておく。

あなたは、わが子イエスのこの「小さな植物」の指導司祭とともに、この仕事、すなわち、私が人間から期待する特別な信心を推進しなければならない。わが息子たちよ、あなたがたに私はこのとても重要な仕事とその将来を託す。

わが被造物すべてから知られ、愛され、尊ばれるように粘り強く語り続け、私の言葉を知らしめよ。そうすれば、あなたがたは、私があなたがたに期待することを実行したことになる。

私の意志、私が長い間沈黙のうちに大切にしてきた願いをあなたがたが実現することになる。

私の栄光のためにあなたがたがすることのすべてに対して、私はあなたがたの救いと聖別化のために 2 倍にして報いる。最後に天において、そして天においてのみ、あなたがたはこの目標のために働いてきたすべての者たちとともに、私があなたがたに特別な形で与える偉大な報酬を見ることになる。

私は自分のために人間を創ったのだから、人間にとっては私がすべてであるべきなのだ。人の心は私自身のために作られたのだから、人間は父であり創造主である私以外とは真の幸福を享受することはできない。

私にとっては、わが被造物に対する私の愛はあまりに大きく、彼らの間にいること以上に大きな喜びはない。

天国にある私の栄光は無限に大きい、わが子供たち、世界中の人間の間にいるときの私の栄光はさらに大きい。わが被造物たちよ、あなたがたの天国は、わが選ばれし者たちとともに楽園にある。なぜなら、あなたがたはそこで、永遠の光景のうちに私を沈思黙考し、永遠の栄光を味わうことになるからだ。人びとよ、私の天国は、あなたがた全員とともに地上にある。そう、私が私の幸福と喜びを求めるのは、地上に、そしてあなたがたの魂にあるのだ。

あなたがたは私にこの喜びを与えることができ、それはまた、あなたがたにこのことを望み、期待しているあなたがたの創造主であり父に対するあなたがたの義務でもある。

あなたがたと一緒にいるときに感じる喜びは、わが子イエスとともに地上にいたときに感じたものと劣らないほど大きなものである。わが子、彼を遣わしたのは私である。彼は、私自身であるわが聖霊によって宿ったのであり、一言で言えば、私は常に私であった。

私自身であるわが子を私が愛したように、あなたがたを愛し、わが被造物であるあなたがたに、彼に言ったように言う：あなたがたはわが愛する子であり、あなたがたは私の心に適う者だ。あなたがたは私の愛する子であり、あなたがたのうちに私は十分に満足している。これゆえに、私はあなたがたとの交わりを喜び、あなたがたとともにいることを望む。あなたがたの間に私がいることは、地上の太陽のようなものだ。

もしあなたがたが私を受け入れる気があるのなら、私はあなたがたのすぐ近くに来て、あなたがたの中に入り、あなたがたを照らし、私の無限の愛であなたがたを温めるであろう。

罪の状態にある魂、あるいは宗教的真理を知らない魂を持つあなたがたの中に入ることはできない。しかし、私はあなたがたのそばにいる。なぜなら、あなたがたが光を見て、罪から癒やされるようにと、私は絶えずあなたがたを呼び続けて私が見たらす恩恵を受け取れることを望むように誘い続けるからだ。

私は時々、あなたがたの不幸な状態を見て憐れむことがある。私は、あなたがたが恵みの魅力に屈するよう仕向けるために、愛をもってあなたを見つめることもある。私は、ある魂たちの永遠の幸福が保証されるよう、何日も、時には何年も、そのそばで過ごすこともある。彼らは、私がそこで待っていること、一日中常に彼らと呼んでいることを知らない。しかし、私は決して疲れることなく、今でもあなたがたの近くにいることに喜びを感じ、あなたがたがいつの日か父のもとに帰ることを、そしてあなたがたが死ぬ前にせめて何らかの愛の行為を私に捧げてくれることをいつも願っている。

突然の死に直面している魂の例を挙げよう。この魂は、私にとって常に放蕩息子*のような存在だった。

私はこの魂に恩恵を惜しみなく与えたが、彼はこれらの恩恵、最も愛する父が彼のために提供したこれらの贈り物をすべて無駄にしてしまった。それ以上に、彼は私をひどく傷つけた。私は彼を待ち、どこにでもついて行き、さらに多くの恩恵を与えた。健康や富など、彼の仕事から生じるものを、有り余るほどに与えたのである。時折、私の摂理は彼にさらなる贈り物を与えた。それゆえ、彼はすべてのものを十分に持っていたが、彼はそれをすべて自分の悪徳の悲しい光の中でのみ見ており、常習的に犯す大罪のために、彼の全人生はあやまちの塊と化していた。しかし、私の愛は決して疲れなかった。私はずっと彼について行った。何よりも私は彼を愛し、彼の反発にもかかわらず、いつかは彼が私の愛に応え、彼の父であり救い主である私のもとに戻ってくれることを願って、彼のそばで忍耐強く生きることを幸せとしていた。

ついに彼の最後の日が近づいていた。私は、彼が正気を取り戻し、父である私のもとに戻るよう彼に病を送った。時は流れ、私の哀れな息子は74歳となり最後の時を迎えている。私はいつものように、まだそばにいる。いつも以上に親切に話しかける。私が提供する赦しを彼が求めることができるように私は耐え忍び、選ばれし者たちを呼び寄せ、彼のために祈るように頼む。そして今、息を引き取る前に、彼は目を開き、自分のあやまちを認め、私に行きつく真の道からどれほど外れてしまったかを理解する。彼は正気を取り戻し、周囲の誰にも聞こえない弱々しい声で、こう言うのだ。「私の神よ、あなたの私への愛がどれほど偉大であったか、そして私

(*) マザー・ユージニアの注釈：「私はこの例を事実と見ました。まさに私たちの父が口述したことを私が書き取ったとおりです。」

はこのような罪深い生活であなたを怒らせ続けてきたことが今ならよくわかります。私は、父と救い主であるあなたのことを考えたことはありませんでした。今、あなたはすべてを見ておられます。今、あなたが私の中に見ておられ、私が混乱している中でも認識するこのすべての悪の行いをお赦し下さい。私の父、私の救い主、あなたを愛しています。」

彼はその瞬間に死に、そして彼は今ここに、私の前にいる。私は父性愛で彼を裁く：彼は私を父と呼び、彼は救われた。彼は罪滅ぼしの場所で一定期間を過ごした後、永遠に幸せになるのだ。彼の生前、彼が悔い改めたときに救われることを願って喜びを感じていた私は、今、私の天の宮廷で永遠に彼の父でありたいという私の願いを実現したことに、いっそうの喜びを感じているのである。

正義と聖なる恵みのうちに生きる魂については、私は彼らのうちに生きることによって私の幸福を示す。私は彼らに私自身を与える。私は彼らに私の力を生かすことを伝え、私の愛を通して、彼らは彼らの父と救い主である私の中に天国の前触れを見出すであろう！

こうしてメッセージの第一部は終わる。

御父からのメッセージ

第二部

第二部は 1932 年 8 月 12 日に始まる

ある日、悪魔がそれを手に取り、その表紙をハサミで切り裂いた。

私は今、今から時の終わりまで決して枯れることのない生きた水の泉を開いたところである。わが被造物であるあなたがたのもとに、わが子であるあなたがたへの愛に満ちた父なる私の胸を開くために来たのである。あなたがたが私の無限に慈悲深い愛の証人となることを望む。私はあなたがたに私の愛を示すだけでは十分ではない。私は自分の心をあなたがたに開き、そこからさわやかな泉が湧き出し、すべての人がその渇きを癒すようにしたいのである。そうすれば、彼らは、優しい父である私に対する大げさな恐怖が重くのしかかっていたために、今まで知ることのなかった喜びを経験することになるだろう。

私が人に救い主を約束した時から、私はこの泉を湧き出させている*。私はそれを、わが子の御心を通過させて、あなたがたに到達させた。しかし、あなたがたに対する私の計り知れない愛は、私にそれ以上のことをさせ、この救いの水がわが子たちのために湧き出る私の胸を開かせ、彼らが時間と永遠のために必要なものを自由に汲むことを許すのである。

もしあなたがたが、私が話しているこの泉の力を試したいのなら、まず、私をさらによく知り、私が望むほどに、つまり、父としてだけでなく、あなたがたの友として、そして、親友として、私を愛することを学ぶべきである。

なぜ、私の言うことにそんなに驚くのか。私はあなたがたを私に似せて創ったのではなかったか。そうしたのは、あなたがたの父、あなたがたの創造主、あなたがたの神と親しげに語り合っても、何ら不思議に思わないようにするためである。あなたがたは、私の慈愛に満ちた善意によって、私の父的で神聖な愛の子供となったからである。

わが子イエスは私のうちにあって、私は彼のうちにいる。この愛の絆のうちに私たちを結びつけておく聖霊である交わりの愛が私たちを一つにするために。

私の息子はこの泉の器である。人がいつも救いの水で満ち溢れている彼の御心から汲み取ることができるように。しかし、あなたがたは、この泉が新鮮で喜ばしいものであるとあなたがた自身に納得させることができるように、わが子があなたがたのために開くこの泉の存在について確信しなければならない。

(*) マザー・ユージニアの注釈：「主が最初にこの泉について話して以来、私は毎日この泉を見ることができるようになりました。」

だから、わが子を通して私のもとに来なさい。そして、私に近づいたなら、あなたがたの望みを私に打ち明けなさい。私はあなたがたにこの泉を示し、私の真の姿をあなたがたに知らせる。あなたがたが私を知るとき、あなたがたの渇きは潤され、あなたがたはよみがえり、あなたがたの病は治り、あなたがたの恐れは消え去るだろう。あなたがたの喜びは大きく、あなたがたの愛はかつてないほど確かなものに感じられるだろう。

しかし、あなたがたは私に、どうすればあなたのところに行けるのでしょうかと言うだろう。

そう、信頼という道を通して来なさい、私をあなたがたの父と呼び、霊と真理をもって私を愛すれば、このさわやかで力強い水があなたがたの渇きを潤すには十分であろう。

しかし、もしあなたが本当にこの水が、私を知り、愛するために必要なすべてを与えてくれることを望みながらも、もしあなたが冷たく、無関心だと感じるなら、父という甘美な名で私を呼べば、私はあなたがたのもとにやって来るだろう。

私の泉は、あなたがたに愛と信頼と、あなたがたの父であり創造主から永遠に愛されるために必要なすべてを与えるだろう。

私あなたがた全員に知られることを最も望んでいるのは、あなたがた全員がこの地上においても私の善意と優しさを享受できるようにするためである。まだ私を知らない人々への使徒になりなさい。そうすれば、私はあなたがたの労苦と努力を祝福し、永遠のうちに私とともにあなたがたのために大きな栄光を準備するだろう！

わが子たちよ、私が愛徳の大海であることは、年齢、地位、国を問わず、例外なく、あなたがた全員に対して私が抱く父性愛のもう一つの証しである。また、私は異なる社会、宗派、信仰者、不信仰者、無関心な者を排除することもない。私はこの愛のうちに、人類を構成するすべての理性的な被造物を包み込む。

ここにその証しがある。私は愛徳の大海である。私は、あなたがたの渇きを潤すために、この胸から流れ出る泉を示した。そして今、私の万人に対する善意を知ってもらうために、あなたがたが何も疑わずにその中に飛び込めるように私はあなたがたに私の普遍的な愛徳の大海を示す。なぜか？それは、この大海に飛び込むことで、欠点や罪によって悲痛な思いをした魂が、この愛の水浴びでその苦しさを失くすことができるようにするためだ。彼らは善と愛徳のあり方を学んだことに満足してこの大海からよりよく浮かび出ることだろう。

もし、あなたがたが無知や弱さのために、再びその苦しい状態に陥ったとしても、私は依然として慈愛の大海であり、この苦しみの滴を受け取り、それを慈愛と善に変え、あなたがたの父である私はあなたがたを聖なるものにする事ができる。

わが子たちよ、この世の人生を平和に、楽しく生きたいと願うか？来て、この巨大な海に飛び込み、永遠にその中にとどまりなさい。あなたがたが働き、普通の生活を送る中で、その生活は慈善活動によって聖なるものとなる。

真理に従わないわが子たちについては、私は、彼らがかつてないほどにはっきりと輝く光に目を開くことができるよう、彼らをわが父としての偏愛の中に包み込みたいと願っている。

今こそ時の始まりから予見され、待ち望まれていた恵みの時である。私は自らあなたがたと話すためにここにいる。私は最も優しく、愛に満ちた父親としてここに来た。私は、あなたがたを私のもとに引き上げ、あなたがたの救いを保証するために、我を忘れて身を低くしている。

今生きている者たち、空虚感を持つ者も、そして、世界の終わりまで何世紀にも渡って生きていく者たちよ、あなたがたは一人ではないことを覚えておきなさい。父はあなたがたを思い、その愛の底知れぬ恩恵の分け前をあなたがたに与えようとしていることを。

わが父なる御胸から永遠に湧き出る泉に近づきなさい。健康を与えるこの水の甘さを味わいなさい。そして、あなたの魂において、その美味な力があなたの必要とするものすべてを満たすのを感じたなら、来て、私の愛徳の大海に自らを投じなさい。そうすれば、私の中でのみ生き、あなたのうちに死に、私の中で永遠に生きることができるだろう*。

私はあなたがたのうちにいる。この真理を信じ、聖書がこう語っているこの時を生かす者は幸せである。「神が望まれるように、人々から敬われ愛されなければならない時が来る。」

聖書はさらに、「なぜか」と問いかけ、こう答えている。「神のみが永遠に栄誉と愛と賞賛に値するからである。」

モーセは、第一戒として、私からこの戒めを受け、人々に伝えた。「神を愛し、崇めよ！」

すでにキリスト教信者である人々はこう言うかもしれない。「私たちは生まれたときから、あるいは改宗したときから、あなたを愛してきました。主の祈りでしばしば唱えているように、『天におられる私たちの父よ！』と。」

そう、わが子たちよ、あなたがたが「主の祈り」の最初の部分を唱えるとき、確かに私を愛し、私を敬っている。しかし、さらに祈りを続ければ、わかるであろう。

「御名が聖とされますように！」私の名は祝福されているのだろうか？

続く、「御国が来ますように！」私の国は来たか？

(*) (マザー・ユージニアの注釈：「私たちの父は、親しい対話の中で私にこう言われました。『泉は私の知識の象徴であり、大海は私の慈愛とあなたがたの信頼の象徴である。この泉から飲みたいときは、私を知るために私について学び、私を知ったら、私の慈愛の大海に飛び込み、あなた自身を変えるほどの深い確信をもって私を信頼しなさい。私が抵抗できないほどに。そうすれば、私はあなたがたの過ちを赦し、最大の恩恵をあなたがたに授けるであろう』」

あなたがたがわが子イエスの王権を熱心に尊重しているのは事実であり、彼においてあなたがたは私を尊重している。しかし、あなたがたは、父を王と宣言するという偉大な栄光を否定するのか、または、すべての人が私を知り、少なくとも、私を愛することができるようになるまで私に支配させるという栄光を否定するのか？

私は、ピラトの前で、また、聖なる無垢な人間を鞭打った兵士たちから受けた侮辱に対する償いとして、わが子の王権を祝う祝祭を望むものである。この祝祭を中断することなく、逆に熱烈に、熱心に祝うよう願う。しかし、皆がこの王を本当に知るためには、王の国も知らなければならない。さて、この二つの知識の取得を完全に達成するためには、この王の父、この国の造り主を知ることも必要である。

まことにわが子たちよ、私がわが子に命じて創設させたこの社会である教会は、その創設者である彼、すなわちあなたがたの父なる創造主を敬うことによって、その仕事を完成するであろう。

わが子たちよ、あなたがたの中にはこう答える者がいるかもしれない。「教会は絶えず成長してきました。キリスト教徒はますます多くなっています。これは、私たちの教会が完成したことの十分な証しです！」わが子たちよ、あなたがたの父は、教会の誕生以来、常に教会を見守り続け、わが子と聖霊とともに、私の代理である教皇を通じて教会は無謬であれとを望んでいることを知るがよい。しかしながら、もしキリスト教徒が、優しく慈悲深い、善良で寛大な父である私をありのままに知っていれば、この聖なる宗教をより熱心に、誠実に実践するようになるというのも真実ではないだろうか？

わが子たちよ、あなたがたのことを思い、あなたがたを無限に愛している父がいることを知れば、今度はその代わりに、キリスト教徒、また市民としての義務により忠実になり、神と人の前に義を貫こうと努力するのではないだろうか？

もしあなたがたすべてを分け隔てなく愛し、分け隔てなくあなたがたすべてを子という優しい名で呼ぶこの父を知れば、あなたがたは愛情深い子として私を愛し、そして、私の強い欲求のもとに、この愛は、このキリスト教社会をまだ知らず、また、人々を創造し彼らの父である私を知るよしもない残りの人類にまで及ぶ活発な愛とならないだろうか？

もし誰かが迷信に縛られているこれらの魂や、私が存在することは知っていても、私が彼らの近くにいることを知らない私を神と呼ぶ多くの人々に話したなら、もし誰かが彼らに、彼らの創造主は彼らの父でもあり、彼らのことを考え、彼らに関心を持ち、彼らの悲しみや沈み込んだ心を親しい愛情で包みこむと言ったなら、最も頑なな者の改宗を得、これらの改宗はより多く、より強固で、すなわち、より忍耐強いものとなるであろう。

あなたがたの中には、私が人々の間で行っているこの愛の業を調べて、批判する原因を見つけ、このように言う人がいるであろう。「しかし、宣教師は遠い国に着任した後、信者でない人々に神、神の善、神の慈悲について話すではないか。彼らはいつも神について話しているのだから、それ以上何を言うことができようか」。

宣教師たちは、自分たちが知っている限りの神について語り、今も語り続けるが、あなたがたは私のありのままの姿を知らないと私は断言する。それは恐れによって歪んでしまったあなたがたの愛を変えるために、私はすべての者の父であり、最も優しい父であることを宣言するために来たからである。

私は、わが被造物に似た者となるために来た。それは、恐ろしいほど公正な神というあなたがたの考えを正すためである。その唯一の願いは、地上の生活を楽にし、天上での神聖な生活を与えることであるのに、人々は唯一の父に打ち明けることなく一生を過ごしている。

これは、あなたがたが私を知っている以上に魂は私を知らず、あなたがたが私について抱いている考えを克服していない証拠である。しかし、今、私はあなたがたにこの光を与えている。そしてそれは、改宗を得るための、そして可能であれば地獄の門を閉じるための強力な手段となるであろう。私は今、永遠に続く私の約束を繰り返して言う。

たとえ一度でも父の名で私を呼ぶ者はみな、滅びることなく、選ばれた者たちの中で永遠の命を得ることができる。

そして、私の栄光のために働き、私の名を知らしめ、尊び、私が愛されるために身を捧げる者たちには、その報いが大きいことを保証しよう。なぜなら、私は、あなたがたの行うほんの小さな努力さえもすべて数え、永遠のうちに 100 倍の報いを与えるからである。

話したように、聖なる教会において、この社会の創造主、この社会を築くために来た神、この社会の魂である神、つまり、父と子と聖霊の三位一体の神を非常に特別な形で称える信心を実現することが必要である。

教会と全人類において、この 3 つの位格が特別な信心によって尊ばれるまでは、この社会は何か欠けていることになる。私はすでに何人かの魂にこの欠落を気づかせたが、そのほとんどは、あまりに臆病であったため、私の呼びかけに応じなかった。他の者たちは、勇気を出してそのことを適切な人々に話したが、失敗に直面し、粘り強くなれなかった。

今、わが時は来た。人間、わが子たちが今日まで完全に理解していなかったことを知らせるために、私自身がやって来ているのだ。私自身は、愛の法則の炎をもたらすために来ている。そうすれば、この手段によって、人類を取り巻く巨大な氷の層を溶かし、破壊することができる。

ああ、愛する人々よ、ああ、わが子たる者よ、純粋な愛である父への恐れという悪魔が今まであなたがたに縛り付けていた束縛から自らを解放し、鼓舞するがよい。さあ、私に近づきなさい。あなたがたには父に近づくあらゆる権利がある。心を開き、わが子に祈りなさい。あなたがたに対する私の善意をさらによく知ることができるよう助けてくれるように。

迷信と悪魔の掟の囚われの身となった者よ、この専制的な奴隷の身から離れ、真理の中の真理に気づきなさい。あなたがたを創った父を認識しなさい。

自分の権利を主張して、今まで無益に人生を過ごさせた者たちに礼拝や敬意を払おうとしてはならない。むしろ、私のもとに来なさい。私はあなたがたを待っている、あなたがたは皆、私の子供だからだ。

そして、真の光の中にいるあなたがたは、真理の中で生きることがいかに甘美であるかを彼らに伝えなさい。また、わが被造物であるキリスト教徒たち、わが子たちには、すべてを見、すべてを知り、すべてを備え、無限に善良で、容易に許し、ゆっくりと不本意にしか罰しない父がいると考えることがいかに甘美であるかを告げなさい。私が彼らを助けるから私のもとに来よう彼らに告げなさい。私は彼らの重荷を軽くし、彼らの厳しい人生を甘美にする。私は彼らをわが父なる愛で酔わせ、今も永遠においても彼らを幸福にする。

そして、信仰を失い、暗闇の中で生きているわが子たちよ、目を上げなさい、あなたがたを照らすために輝く光がやってくるのを見るだろう。

私は光り輝き、温め、温めなおす太陽である。私はあなたがたの創造主、あなたがたの父、あなたがたの唯一の神であることを見て、認識しなさい。私はあなたがたを愛しているからこそ、あなたがたすべてが救われるようあなたがたに私を愛させるために来た。

私は世界中のすべての人に語りかけ、私の父なる愛のこの訴えを鳴り響かせ、あなたがたに知ってもらいたいこの無限の愛が永遠に実在することを伝えている。

愛せよ、愛せよ、常に愛せよ。しかし、あなたがたを熱烈に愛している父を、今日からでも私があなたがた皆に示すことができるように、父への愛し方を他の者にも示しなさい。

そしてあなたがた、わが愛する息子たち、司祭たち、修道士たちよ、私が人間に対して、とりわけあなたがたに対して抱いているこの父なる愛が知られるようにすることを強く呼びかける。あなたがたは、私の意志がすべての人のうちに、そしてあなたがたのうちに達成されるように働かなければならない。それは、私が知られ、敬われ、愛されるためである。私は愛されたいという願望で渴いているのだから私の愛を長い間放置してはならない!

この世紀は、他のどの世紀よりも特権的である。この特権が取り下げられることを恐れて、この特権を見過ごしてはならない。魂はある種の神聖な接触を必要とし、時は押し迫る。何も恐れるな、私はあなたがたの父である。私はあなたがたの努力と働きを助ける。私はあなたがたをいつも支え、すでに私のもとで、魂の平和と喜びを味わわせ、あなたがたの務めと熱心な働きを実り多いものにする。平和と喜びに満ちた魂は、永遠の報酬を待ち望みながら、すでに天国の前触れが感じられるため、これは計り知れない贈り物である。

私は、地上における私の代理人である最高教皇に、遠い国々での宣教使徒職に対する特別な好意と、とりわけ、わが子イエスの聖心への信心を全世界に広めるための大きな熱意を伝えた。今、私はイエスが成し遂げるために地上に来たこの同じ仕事を彼に託している。それは、私がすべての人、わが被造物、子どもたちに伝えているように、ありのままの私を知らせることによって私を讃えることである。

もし人々がイエスの心をその願いと栄光のすべてにおいて貫くことができたなら、その最も切なる願いは、イエスを遣わした父を讃えること、そして何よりも、父の栄光が今までのように弱まることのないようにすることであると悟るだろう。父は、人が私に与えることができ、また与えなければならない完全な栄光を、彼らの父として、神として、さらに彼らの贖罪の創造主として、望んでいる！

私は人間に、私に与えることのできるもの、すなわち、信頼、愛、感謝を求めている。私が知られ、敬われ、愛されることを望むのは、わが被造物や彼らからの崇拝を必要としているからではない。私が身をかがめる唯一の理由は、人間を救い、私の栄光への分け前を与えるためである。さらに、私の善と私の愛において、私が無から引き上げ、私の真の子として養子にした者たちが、悪魔たちとともに永遠の不幸の中に大勢落ちていることを悟っている。彼らはこうして、創造された目的を果たせず、彼らの時間と永遠性を失っているのだ！

今、何よりも私が望むことがあるとすれば、それはただ、公正な人々のさらなる熱意、罪人の回心への円滑な道、誠実で忍耐強い回心、そして放蕩息子たちが父の家に帰ることを見ることだけである。私は特に、ユダヤ人と、わが被造物であり子どもである他のすべての人々、すなわち分裂主義者、異端者、フリーメイソン、哀れな異教徒、冒とく者、さまざまな秘密の宗派に言及している。私はこの全世界に、神と創造主が存在することを知らしめたいのである。

この神は、彼らの無知を二度にわたって注意を向けたが、彼らには未知なことであり、私が彼らの父であることを知らない。

これらの言葉を読みながら私の話を聞いている者よ、私を信じなさい：もし、私たちのカトリック教会から遠く離れたすべての人が、彼らを愛し、彼らの創造主であり、彼らの神であるこの父について、彼らに永遠の命を与えようと望んでいるこの父について語る人々を聞いたなら、これらの人の多くは、最も頑なな者でも、あなたがたが彼らに語ったこの父のもとにやって来るだろう。

もしあなたがたが彼らのところに行って直接話すことができないなら、他の手段を探しなさい。何千もの直接的、間接的な方法がある。弟子としての真の精神と熱意をもって、それらを実行に移しなさい。あなたがたの努力は、やがて特別な恵みによって成功の栄冠を得ると私は約束する。あなたがたは私の父なる善の使徒となり、私があなたがた全員に与える熱意のゆえに、あなたがたは魂とともに働く業において強く、力強くなるであろう。

私は常にあなたがたの近くに、あなたがたのうちにいる。あなたがたが二人で話しているのなら、私はあなたがたと共にいる。もっと多いのなら、私はあなたがたの中にいる。こうしてあなたがたは、私が言うようにと吹き込むことを言い、私は聞き手をあなたがたの話聞くのに適した心境にさせる。このようにして、人は愛に征服され、永遠に救われるのである。

私が望む私を褒めたたえる手段に関してあなたがたに求めるのは、大きな自信だけである。私が耐乏生活や苦行を望んでいるとは思わないでほしい。裸足で歩けとか、塵に顔を伏せろとか、灰をかぶれとか、そんなことは望んでいない。いや、そ

うではなく、私の親愛なる願いは、あなたがたが私の子供として、単純に、私を信頼して行動することなのだ。

あなたがたとともに私はすべての人のすべてとなり、最も優しく愛情深い父となろう。私はあなたがたと親密な関係になり、あなたがた全員に自分自身を与え、自分自身を小さくしてあなたがたを永遠に偉大な存在にする。

不信心者の大部分、すなわち不敬虔な者たちや様々な共同体は、私が彼らに不可能を要求していると思い込んで、その不義と不信仰に留まっているのである。彼らは、権力とプライドで臣下と距離を置く専制君主の奴隷のように、私の命令に服従し、敬意と信心を示すよう義務付けなければならない。いや、いや、わが子たちよ。私は自分自身を小さくする方法を知っている、あなたが想像するよりもはるかに小さい。

しかし、私が求めるのは、私が教会に与えた戒律を忠実に守ることである。そうすれば、あなたがたは理性的な被造物となり、規律の欠如と悪しき傾向のために動物のようになることはなく、私があなたがたに与えた魂という宝物を、その神々しい美しさを十分にまとった状態で保存することができるのである。

それから、私の望みに従い、すでにあなたがたに指示したことを行いなさい。特別な信心をもって私を敬いなさい。これによって、あなたがたに多くの恩恵を与え、私の力と栄光を大いに共有させるという私の意志が、単にあなたがたを幸せにし、あなたがたを救うためであることがわかるように。そして私の唯一の望みは、あなたがたを愛し、見返りとしてあなたがたから愛されることであると示すように。

もしあなたがたが忠実な子供として私を愛するなら、あなたがたはまた、私の教会と私の代表者たちに対して、愛に満ちた従順な尊敬の念を抱くようになるだろう。あなたがたが今示しているような私を恐れて私から距離を置くような尊敬ではない。あなたがたが今持っているこの偽りの尊敬は、正義に対する不正であり、あなたがたが私の心の最も敏感な部分に引き起こす傷である、あなたがたは私の父なる愛を忘れ、軽んじているのだ。

私の民、イスラエルについて最も私を悲しませたのは、そして、現代の人類について今もなお最も私を苦しめているのは、あなたがたが私に対して抱いているこの誤った考えによる尊敬である。人間の敵は、実際それを利用して、偶像崇拜と分裂に陥るように仕向けた。敵は今もそれを利用し、今後もあなたがたに対して、あなたがたを真理から、私の教会から、そして私から遠ざけるために利用し続けるだろう。ああ、これ以上、敵に導かれることを許してはならない。あなたがたに啓示されている真理を信じ、この真理の光の中を歩むがよい。

カトリック教会の外にいるわが子たちよ、あなたがたは、私の父の愛から排除されているのではないことを理解するべきだ。私がこのように優しく訴えているのは、あなたがたもまた、私の子だからである。もし今まで悪魔の罠にかかったまま生きてきたのなら、悪魔があなたがたをだましたことを認めなさい。父である私のもとに来なさい、そうすれば私は喜びと愛をもってあなたがたを迎え入れるであろう。

そして、自分が育ってきた宗教しか知らず、その宗教が真のものでないあなたがたは、目を開きなさい。あなたがたを創造し、救いたいと願っているあなたがたの父がここにいる。私はあなたがたに真理と救いをもたらすためにあなたがたのところに来た。あなたがたが私を知らず、私が望むのは私があなたがたの父、創造主、救い主であるのを知ってほしだけであることを理解していないことも分かっている。このようなことを知らないがために、あなたがたは私を愛することができないのだ。それゆえ、私はあなたがたが思っているほど離れてはいないことを理解しなさい。

私の愛によってあなたがたを創造し養子にした後で、どうしてあなたがたを一人にすることができようか？私の無限の善についてあなたがたが忘れていてもかかわらず、すべてがあなたがたに対する私の大なる寛容さとして確かなものとなるように、私はどこへでもあなたがたについて行き、いつもあなたがたを守っている。このことを忘れていたために、あなたがたは、「自然は私たちにすべてを与え、私たちを生かし、死なせてくれる。」という。今こそ、恵みと光の時である。そして、私が唯一の真の神であることを認識しなさい。

現世と来世で本当の幸せを与えるために、この光の中で私が提案することを実行してほしい。今がその時である。あなたがたの心に捧げられたこの愛を失わないでほしい。私は皆に典礼に従って聖なるミサに参加するようお願いしたい。これは私を大いに喜ばせることである。後日、私はあなたがたに短い祈りを提案するが、あなたがたに負担をかけたくはない。

最も重要なことは、私が告げたように、私の榮譽のために祝宴を開き、あなたがたの神、父、創造主、人類の救い主の真の子としての素直さで、私のために仕えることである。

ここに、人間に対する私の父なる愛のもう一つの証拠がある。わが子たちよ、私の無限の愛の偉大さ全体について語ることはしない。なぜなら、あなたがたは聖なる書物を開き、十字架、聖櫃、聖なる秘跡を見るだけで、私があなたがたをどれほど愛してきたかを理解することができるからである。

とはいえ、あなたがたが私の意志を満たし、私の身をよりよく知らしめ愛されるようにする必要があることを示すために、人の間における私の愛の営みの基礎を示すにすぎないこの言葉を終える前に、あなたがたに対する私の愛の無数の証拠のいくつかを指摘したいと思う。

人は真理のうちに生きない限り、真の自由を味わうことはできない。わが子たちよ、私があなたがたを創った従順という真の掟の外にいるあなたがたは、喜びと平安を持っていると思っている。しかし、あなたがたは心の奥底で、自分には真の平和も真の喜びもなく、あなたがたを創造した神なる父の真の自由を享受していないことを感じている。

しかし、まことの律法にとどまるあなたがたは、いや、むしろ、あなたがたの救いを保証するために私が与えた律法に従うと約束したあなたがたは、悪徳によって悪に導かれるようになった。あなたがたは、悪い行いをすることによって、律法から

外れてしまったのである。あなたは自分が幸せだと思うか？いや、心は安らかでないと感じているはずだ。快樂や人間的な喜びを求めれば、最終的に心が満たされるとでも思っているのだろうか。いや、言うておくが、私を父と認め、私のくびきに服従し、父である神の真の子供となるまでは、真の自由も真の幸せも感じることはないのである。なぜか？それは、単純で信頼できる子供が父親に仕えるように、私を知り、私を愛し、私に仕えるというただ一つの目的のためにあなたがたを創ったからだ。

かつて旧約聖書の時代、人は動物のように振る舞い、父である神の子としての尊厳を何一つ保っていなかった。だから、私が彼らを神の子としての偉大な尊厳に引き上げたいということを彼らに悟らせるために、私は時に恐ろしく厳しい姿を見せなければならなかった。その後、彼らの中に、やがては動物と自身を切り離さなければならないことを理解する十分な理性が備わった者たちを見たとき、私は彼らに恩恵を与え、まだ自分の尊厳を認識し保つことができない人々に対して勝利させるようにした。

そして、彼らの数が次第に増えてきたので、私はわが子を彼らのもとに遣わした。彼は完全な神の子であったので、神の完全性のすべてで飾られていた。完全への道を彼らに示したのは彼であった。彼を通して、私は無限の愛のうちにあなたがたを本当の子供として迎え入れた。それ以来、私はあなたがたを単に「被造物」と呼ぶことはなく、「子どもたち」と呼んでいる。

私は、古い掟の人間のようにあなたがたを動物から区別するだけでなく、旧約聖書の人間よりも高く上げる新しい律法の真の精神を身にまとわせた。私はあなたがたを神の子としての尊厳に引き上げた。そう、あなたがたは私の子供であり、あなたがたは私があなたがたの父であると私に言わなければならない。子どもたちがそうするように、私を信頼しなさい。この信頼なしには、あなたがたは決して真に自由になることはできないからだ。

私があなたがたに話していることはすべて、私がこの愛の業を遂行するために来たこと、あなたがたの魂を拘束する専制的な奴隷制を捨て、本当の自由、そこから来る本当の幸福を味わわせるための強力な助けを与えるために来たことを、あなたがたに悟らせるためである。この自由に比べれば、地上の喜びはすべて無に等しい。あなたがたは、神の子としての尊厳を高め、自分自身の偉大さを尊重する方法を学びなさい。そうすれば、私はこれまで以上にあなたがたの父となり、最も愛すべき、慈悲深い父となるであろう。

私はこの愛の業で平和をもたらすために来たのだ。私を敬い、私を信頼する人の上に、とりわけ私を父と呼び愛する人の上に、一筋の平和を降らせて、その人がすべての悩み、すべての心配事、苦しみ、苦悩から解放されるようにするためである。

もし家族が私を敬い、私を父として愛するならば、私は彼らに、私の平和とともに、私の摂理を与えるであろう。労働者、ビジネスマン、職人が私を呼び起こし敬うならば、私は彼らに私の平和と力を与え、私が善良で慈しみ深い父であることを示すだろう。それぞれのキリスト教共同体が私を呼び起こし敬うならば、私はそこ

に私の平和を与え、最も愛に満ちた父であることを示し、私の力によって魂の永遠の救いを確かなものにするだろう。

もし全人類が私を呼び起こし敬うならば、私は慈悲深い露のように平和の精神をその上に降らせるだろう。

もし、すべての国々が私を呼び起こし敬意を払うならば、不和も戦争もなくなるだろう。なぜなら、私は平和の神であり、私がいるところには戦争はあり得ないからである。

あなたは敵から勝利を得たいと願うか。私を呼べば、あなたは敵に勝利する。

最後に、あなたがたは、私が私の力によりすべてを行うことができることを知っている。現在そして永久に用いることができるようこの力をあなたがた全員に差し出している。あなたがたが私の子供であることを示すならば、私は常にあなたがたの父であることを示すだろう。

この愛の業で、私を理解できる心を見出すことができなければ、私は何を達成したいというのか？私は完璧で完全な表現を持つ聖なるものである。私は私の聖霊を通して、私が創作したこの聖なるものをあなたがたに差し出し、私の息子の功績によってあなたがたの魂にそれを植え付ける。

わが子と聖霊を通して、私はあなたがたのもとに行き、あなたがたのうちに入り、わたしはあなたがたのうちに私の安らぎを求めるのである。

ある魂にとっては、「あなたがたのうちに入る」という言葉は謎のように思えるだろうが、それは謎ではない。なぜなら、わが子に聖体を制定するよう指示した私は、あなたがたが聖体を受けるたびに、あなたがたのもとに入るつもりでいたからである。

もちろん、聖体の前であっても私があなたがたのもとに来ることを妨げるものは何もなかった。私に不可能なことは何もないのだから。しかし、この秘跡を受けることは理解しやすい行為であり、私がどのようにしてあなたがたのもとに来るかを示している。

私があるあなたがたのうちにいるとき、あなたがたは私に求めさえすれば、私は自分の持っているものをより簡単にあなたがたに与えることができる。

この秘跡を通して、あなたがたは私と親しく結ばれる。この親密さの中でこそ、私の愛のほとばしりが、私の聖性をあなたがたの魂に広めるのである。

私はあなたがたを私の愛で満たす。だから、あなたがたはただ必要とする美德と完全性を私に求めればよいのである。あなたがたは、神が被造物の中で休息しているその瞬間には、あなたがたを拒むものは何もないと確信することができる。

私の好きな休息場所を知っていて、それを私に差し出しはしないのか？私はあなたがたの父であり、あなたがたの神である。あなたがたは大胆にもこれを拒否するつもりなのか？ああ、この一つの願いを私自身のために求めている父に対するあなたがたの残酷さで私を苦しめないでほしい。

このメッセージを終える前に、私への奉仕に生涯を捧げている数多くの魂に願いを伝えたいと思う。あなたがた、司祭と修道者は、そうした魂たちである。あなたがたは、観想生活であれ、慈善活動や使徒的活動であれ、神への奉仕に生涯を捧げている。私の側では、これは私の善意によって与えられた特権であり、あなたがたの側では、あなたがたの善意による召命への忠実さなのである。

これが私の願いである。私が人間に期待することをたやすく理解できるあなたがたは、私がすべての魂に愛の業を成し遂げることができるよう私に祈りなさい。あなたがたは魂を獲得するために乗り越えなければならないすべての困難を知っているはずだ。これはあなたがたが彼らの多数を私のもとに連れてくるのを助ける効果的な手段である。この手段とは、私を人々に知らせ、愛させ、敬意を払わせることである。

私は、あなたがたがこれを始める最初の人であってほしいのだ。司祭や修道者の家に最初に入ることは、私にとって何という喜びである。

私の愛する子らの中に、父としての私の身を見出す喜びはいかばかりであろうか。私はあなたがたと、親しい友人と話すように会話を交わすだろう。私はあなたがたのために、最も分別もある親友となろう。私はあなたがたのすべてであり、あなたがたのすべてのニーズを満たすだろう。そしてなによりも、私はあなたがたの願いを聞き入れ、私の愛と恩恵と普遍的な優しさをあなたがたに惜しみなく注ぐ父となろう。

私があなたとともに楽しみたいと願うこの喜びを拒んではならない。私はそれを100倍にしてあなたがたに返そう。あなたがたが私を敬うので、私もあなたがたを敬い、私の王国においてあなたがたのために偉大な栄光を用意する。私は光の中の光であり、それが浸透するところには、生命と糧と幸福がある。

この光は、巡礼者、懐疑者、無知な者をも照らし出す。この光は、暗黒と悪徳のこの世に生きる者たち、あなたがた全員を照らすだろう。もし、私の光を持っていないければ、あなたがたは永遠の死の淵に落ちてしまうだろう。

最後に、この光はいまだに迷信の犠牲になっている哀れな子供たちのために、真のカトリック教会に通じる道を照らしてくれるだろう。私はこの世で最も苦しむ者たち、哀れなハンセン病患者たちに、父としての姿を示すだろう。

私は、あらゆる人間社会のはみ出し者とされる見捨てられたすべての人々の父であることを示すだろう。私は、苦しんでいる人、病人、そして何よりも苦悩している人たちの父として姿を示すだろう。私は、すべての家族、孤児、未亡人、囚人、労働者、若者に、父としての姿を示すだろう。私は王たちの父、その国々の父として、私の身を示すであろう。あなたがたは皆、私の善意と私の保護を感じ、私の力を見るようになる。

私の父としての、そして神としての祝福を皆に。アーメン！

特に私の息子と代表者に。アーメン！

特に私の息子である司教に。アーメン!

特に私の息子であるあなたがたの霊的な父に。アーメン!

特に娘たち、あなたがたの母親に。アーメン!

私の愛のすべての信徒に。アーメン!

すべての教会とすべての聖職者に。アーメン!

煉獄の教会に特別な祝福を。アーメン!アーメン!

付録

マザー・ユーニアの事例に関する教会法に基づく調査で作成された報告書に続く グルノーブル司教 アレクサンドル・カイヨ神父の証言

グルノーブルの司教として、マザー・ユーニアの事例の調査を開始することを決めてから 10 年が経過しました。私は今、司教としての証言を教会に提出するのに十分な情報を持っています。

1) 調査の結果、まず確実に明らかになったことは、マザー・ユーニアの相当な美德が十分に立証されたということです。

修道生活の初めから、このシスターはその敬虔さ、従順さ、謙虚さのゆえに、修道院長らの注目を集めていました。

修道院長らは、彼女の修道中に起こった途方もない出来事に困惑し、彼女を修道院にとどまらせることを望みませんでした。しかし、この修道女の模範的な行動を前にして、修道院長らはその計画を断念せざるを得ませんでした。

調査の間、シスター・ユーニアは、すべての医学的検査に文句を言わず、神学委員会と医学委員会からのしばしば長く苦しい質問に答え、矛盾と試練を受け入れ、大きな忍耐と最大限の従順さを示しました。特に彼女の素朴さは、すべての調査官から賞賛されました。

また、この修道女が英雄的なまでに徳を積むことができることを示す状況がいくつもありました。神学者によれば、特に際立った特徴は、1934 年 6 月のオーギュスト・ヴァランサン神父の調査の際の彼女の従順さと、1934 年 12 月 20 日の悲しい日における彼女の謙遜さであったと言います。

私は、彼女が総長であった間、総長になる準備がまだできておらず、彼女にとってはいっそう困難に見えたであろう自分の任務に魂、修道会、教会への大きな愛をもって身を捧げていたことを証明することができます。私自身も含め彼女の近くにいた人々は、困難に立ち向かう彼女の精神の強さに心を打たれています。

私は、彼女の美德だけでなく、彼女がその権限を行使する際に示す資質にも感銘を受けています。また、比較的無学な修道女が修道会の最高の役職に就くようになったという事実も印象的です。この点で、すでに何か並外れたものがありました。またこの観点から、私の総司祭であるゲリー師が彼女の選出の日に行った調査は非常に重要なものでした。マザー・ユーニアを総長として選ぶことは、その若さと、通常なら彼女の指名案は否決されるはずの典礼上の障害があつたにもかかわらず、総長会のメンバー、各ミッションの長や代表者たちが出した答えは、彼女の判断力とバランスのとれた気質、エネルギーと堅固さが選ばれた理由であったことを示しています。現実には、彼らが彼女に託した期待をはるかに超えていたようです。

私が特に注目したのは、彼女の明晰で、生き生きとした鋭い知性でした。私は、彼女が十分な教育を受けていないと言いましたが、それは彼女がコントロールできない外的な理由によるものでした。母親の長い闘病生活のために、彼女は幼い頃から

家事を手伝わされ、学校もよく休みました。また、修道院に入る前は、織物職人として産業界で働いた厳しい年月もありました。

このような基本的な隔たりが、彼女の文体や綴りに表れているにもかかわらず、マザー・ユージニアは地元で多くの講演をこなしています。特筆すべきは、修道会の回覧板や、使徒座の聖母病院が自治体や行政評議会と交わした契約書を彼女自身が編集していることです。また、彼女は長い名簿も編集しています。

彼女は、まるですべては良心の問題であるかのように、あらゆる状況を明確かつ正確に把握しています。彼女の指示はわかりやすく、正確で、非常に実用的です。彼女は1400人のシスターたち一人一人を個人的に知っており、それぞれの態度や美德も知っています。それゆえ、さまざまな任務を遂行するのに最もふさわしい者を選ぶことができます。彼女はまた、修道会の必要性和財源について正確な個人的知識を持っています。彼女は各地の修道院の現状を把握しており、修道会の施設すべてを訪れています。

私たちは、彼女の先見の明の精神も強調したいと思います。彼女は、すべての病院や学校に、資格のある修道女を配置し、彼らが生活し発展していくために必要なものをすべて揃えるためにあらゆる必要な措置を講じました。特に興味深いのは、マザー・ユージニアが決断力、現実感覚、創造的な意志を持っているように見えることです。彼女は6年の間に67の施設を設立し、修道会に非常に有益な改善策を導入することができました。

私が彼女の知性、判断力、意志の資質と管理能力を特筆するならば、それは幻覚、幻想、靈魂論、ヒステリー、錯乱に関するすべての仮説が決定的に排除されるように思われるからです。これらの仮説は調査中に検討されましたが、事実であるとの満足な説明ができないことが証明されました。

マザー・ユージニアの人生は、彼女の精神的、一般的な平静を常に示しており、観察者には、それが彼女の人格の主要な特徴であるように思われたのです。他の仮説は、暗示にかかりやすい、操られやすいなどというもので、研究者たちは、あらゆる影響や示唆を反射する多面鏡のように非常に多感な気質を持つ相手なのではないかと考えました。これらの仮説も、日常の現実的な理由から否定されました。マザー・ユージニアは、繊細な性質と感情的な気質を備えていますが、決して誰かを鼻屑することなく、人間の思惑に左右されることなく、常に自分のプロジェクトや活動を決定し、その個人的な洞察力で他の人々に受け入れてもらえることを示してきたのです。簡単な逸話は、どんな考察よりも価値が分かるものです。総長として選出された翌日、彼女は上官を指名しなければなりませんでしたが、しかし、彼女は迷わず、ちょうど総長として彼女に投票した上官の一人を外しました。この上官はエジプトに上陸したときに航空便で通知を受け、任命が取り消されたことを知りました。

2) マザー・ユージニアに託されたと思われるミッションの目的は明確であり、教義的な観点から、私はそれを正当かつ時宜を得たものと見なします。

その正確な目的は、主に教会に要請された特別な祭儀の制定によって、父なる神を

知らしめ敬うことです。この調査によって、御父を称える典礼祭儀は、カトリック教会の慣行全体と全く調和するものであることが立証されました。それは、ミサの祈りや聖なる犠牲の間に行われる御父への典礼の捧げ物に示されるように、御子を通して、聖霊のうちに御父に向かうカトリックの祈りの伝統的な主旨に一致するものであります。

しかし、御父を称える特別な祭儀がないのは不思議なことです。三位一体はそのように尊ばれ、御ことばと聖霊はその使命と外的顕現によって尊ばれます。しかし、御父だけは、キリスト教徒が御父の人柄に注意を向けるような独自の祭儀がありません。これが、信徒を対象としたかなり広範な調査によって、さまざまな社会階層において、また多くの司祭や修道者の間でさえ、「御父は知られておらず、誰も御父に祈らず、誰も御父について考えない」ということが明らかになった理由です。この調査によって明らかになったのは、驚くべきことに、多くのキリスト教徒が御父を恐ろしい裁判官として見ているために、御父と距離を置いたままであるということです。彼らは、キリストの人間性に頼ることを好みます。そして、どれだけの人がイエスに御父の怒りから自分たちを守ってくれるよう頼んでいることでしょうか。

このように、特別な祝祭は、第一に、多くのキリスト教徒の靈性に秩序を取り戻させ、第二に、神聖な救い主の教えに彼らを導く効果があるでしょう。「私の名によって父に求めるすべては……」そしてまた「あなたがたはこう祈りなさい。『天のおられる私たちの父よ…』」と。

父なる神に捧げられる典礼祭は、使徒聖ヤコブが「光の父、すべての賜物はこの方から…」と呼んだ方に私たちの目を向けさせる効果もあるでしょう。それは、神の善意と父のような摂理を考えるように魂を慣らすでしょう。この摂理はまさに三位一体の神のものであり、三位一体に共通する神の本性ゆえに、神はその無限の慈悲の計り知れない宝をこの世に広めていることを理解するようになります。

一見すると、御父を特に尊ぶべき特別な理由はないように思われるでしょう。しかし、御子を世に遣わされたのは御父ではないでしょうか。もし御子と聖霊に信心を示すことが、その外的な顕現のために至極正しいのであれば、ミサの序文にあるように、御父が私たちに送ってくださった賜物である御子のために父なる神に感謝することは、正しく適切ではないでしょうか。

この特別な祭儀の真の目的は、御父をたたえ、感謝し、御子を与えてくださったことを賛美すること、このように明らかです。一言で言えば、メッセージで述べられているとおり、私たちの贖罪の創造者として、御父がそのひとり子を与えたほどに世を愛し、それによってすべての人がキリストの神秘体のうちに集められ、この御子とともに御父の子となれますようにと感謝することです。世界が世俗的な教義、無神論、近代哲学に悩まされ、もはや真の神である神を認めていない今、この祭儀は、イエスが私たちに明らかにしてくださった生ける父、慈しみと善意の父を多くの人々に知らせるものではないでしょうか？それは、イエスが言われた「霊とまことをもって」父を礼拝する人々の数を増やすことに貢献しないでしょうか。

今、世界が致命的な戦争によって引き裂かれているとき、人々がより親密になるための一致への固い信念を求める必要性を感じているとき、この祭儀は大きな光をもたらすことでしょう。この祭儀は、人々に天において皆同じ父を持っていることを教えるでしょう。イエスをお与えになった方は、同じ愛の霊の一致のうちに、ご自分の神秘体のメンバーとして人々を引き寄せられるのです。多くの方が、戦争という苦難に疲れ果て、深い霊的生活を求めているのではないのでしょうか。このような祭儀は、彼らを“内より”呼び寄せ、御自身を隠しておられる父を礼拝し、彼らの内にある三位一体の生命の唯一の源である父に、子としてふさわしい寛大な奉納を捧げるものではないのでしょうか？

それは、魂を霊的な幼年期へと導き、また、確信を通して、御父の子としての相應しい生活、神の意志への献身、信仰の精神へと自然に引き寄せる超自然的生命のすばらしい動きを維持するものではないのでしょうか？一方、特別な祭儀の問題とは全く別に、またこの問題に関して教会がどのような決定を下すかには関係なく、教義の問題が生じています。ある高名な神学者は、魂と三位一体の関係についての教義はもっと深く検討される必要があり、それは魂にとって、聖ヨハネが語る父と子の一致の生活や、父の子であるイエスの生活、特に父への孝行愛を共有するための啓発の源になり得ると考えています。

しかし、こうした神学的な理由とは別に、私がここで強調したいのは、神学に精通していない貧しくて若い女性が、神からのメッセージを受け取っていると宣言し、それが非常に豊かな教義である可能性があるということです。

架空の神秘家の作品は、稚拙で、不毛で、一貫性がありません。しかし、マザー・ユージニアが父から託されたというメッセージは実り豊かです。そこには真偽を確認するのに役立つ二つの異なる人物の協調的な相互作用が存在します。一方で、キリストの父についての啓示のすべてがすでに語られており、すべてが福音にあると絶え間なく繰り返すので、疑わしい革新なしに教会が伝統的に抱いているものとして提示されています。しかしもう一方では、御父の知識に関するこの偉大な真理は、再考され、深く研究され、経験される必要があると宣言しているのです。

このような性質の教義を自分で発見することができない手段の弱さと、伝えられているメッセージの深さとの不釣り合いは、優れた、超自然的な、神の理念が介在して、このメッセージをシスターに託したことを明らかにしていないのでしょうか？

私は、人間的に言えば、この修道女がある考えを発見したことをどう説明したらよいかわかりません。その考えの独創性と豊かさは、調査を行った神学者たちが徐々にしか認識できないものでした。

もう一つの事実も同様に重要であると思われます。シスター・ユージニアが御父の出現を受けたことを公表したとき、調査にあたった神学者たちは、御父の出現はそれ自体不可能であり、歴史上一度も起こったことがないと答えたのです。シスターはこれらの反論に対して、こう宣言しただけです。「御父は、私が見たことを説明するようと言われました。神学者である息子たちに探求してほしいと頼んでいます。」

修道女は自分の証言を何一つ変えませんでした。彼女は何カ月にもわたって自分の発言を貫きました。神学者たちが聖トマス・アキナス自身に自分たちの異議に対する答えを発見したのは、1934年1月になってからのことでした。出現と宣教の区別について、この偉大な教会博士が与えた答えは、啓発的なものでした。この回答は、調査全体を麻痺させていた障害を取り除いたのです。賢明な神学者たちに立ち向かった無学な修道女は正しいことが立証されました。この修道女の場合も、洞察力、知恵、忍耐力を、人間的にどう説明したらよいのでしょうか。偽りの神秘家であれば、神学者の説明に自分を合わせようとしたでしょう。しかし、修道女は自分の立場を貫き通しました。これらのことが、彼女の証言が信頼に足るものであると思われる理由です。

いずれにせよ、私が注目すべきは、この事例の奇跡的な側面に対する彼女の控えめな態度です。偽りの神秘家が並外れた現象に誇りを持ち、それ以外には何も見ようとしないのに対し、マザー・ユージニアは逆に、それらを証拠ならびに手段として、二の次に位置付けたのでした。そこには高揚感はありませんが、価値観の均衡が見られ好ましい印象を与えます。

神学者の調査については、簡潔に言及しません。アルバート神父とオーギュスト・バレンシン神父は、その哲学的、神学的権威と、精神生活に関する深い知識で高く評価されています。この二人は、他の同じような調査の仲裁でも必要とされました。だからこそ、私たちは、彼らが非常に慎重に行動したことを知っており、この仕事に彼らを選んだのです。

私たちは、彼らの献身的かつ良心的な協力に感謝しています。最初は敵対的で懐疑的、そして躊躇しながらも、長い間判断を遅らせていた彼らが、シスターと事実の全体的な超自然的説明を支持する証言をしことは注目に値します。彼らは、あらゆる種類の異論を唱え、修道女に厳しいテストを課した後に、少しずつ確信を持つようになりました。

結論

私の魂と良心の命じるところに従い、そして教会に対する私の責任の最も鋭い感覚をもって、私は超自然的で神の介入が、事実の唯一の論理的かつ満足いく説明であるように思われることを宣言します。

事例の周囲のすべての特徴から切り離されても、本質的な事実は、私には気高く、高尚で、超自然的に豊かなものに思われます。つまり、謙虚な修道女が、イエスが教えた通り、そして教会がその典礼に謳ったような真の父への信心に魂を呼びかけたということです。これには驚くべきことは何もなくむしろ非常に単純で、確固たる教義に従っているだけです。

このメッセージに付随する奇跡的な事実は、主要な出来事から切り離すことができても、その価値はまだ全体が保たれます。特別な祭日の案に関して、教会は、教理上の理由からシスターに関わるこの特定の事例とは別に考えられるかどうかを宣言することでしょう。

私は、この修道女の使命が本物であることの根本的な証拠は、彼女が明らかに私たちに思い出させるように運命づけられた美しい教義を本人の生き方で実践している方法によって示されていると信じています。私は、彼女にその仕事を続けさせるのが適切だと考えています。私は、このすべてに神の手がかかっていると信じています。10年にわたる調査、熟考、そして祈りの結果、このような神の愛の感動的な顕示の場として私の教区を選んでくださった父なる神を私は祝福します。

†アレクサンドル・カイヨ

メッセージが与えられた時点でグルノーブルの司教

父なる神への祈り

十

"Per Ipsum, cum Ipso et in Ipso "
「キリストによってキリストとともにキリストのうちに」

“神は私の父である”

天におられる御父よ、あなたが私の父であり、私があるあなたの子であることを知ることは、何と喜ばしいことでしょうか。

特に、私の魂の（空が）曇り、私の十字架がより重くのしかかるとき、私は「父よ、私はあなたの愛を信じます！」とあなたに唱え繰り返す必要を感じます。

そうです、私はあなたが私の人生のどの瞬間にも私の父であり、私はあなたの子供であることを信じます。

私は、あなたが無限の愛で私を愛してくださることを信じます。

あなたは昼も夜も私を見守っておられ、あなたの許可なく私の頭から髪の毛一本も落ちることはないと信じています。

私は、あなたの無限の知恵において、何が私にとって良いことなのか、私よりもよく知っていることを信じます。

私は、あなたの無限の力によって、悪から善を生み出すことができると信じます。

あなたの無限の善意において、あなたを愛する者に有利になるようにすべてを作ってくださいることを信じます。私を打つ者の手の下でさえ、私はあなたの癒しの手に口づけします。

私は信じます。しかし、私の信仰と希望と愛を強めてください。

私の人生のすべての出来事において、あなたの愛が私の道標となるように、いつも私を導いてください。

母親の腕に抱かれる赤ん坊のように、あなたに自分をゆだねることができるように教えてください。

父よ、あなたはすべてを知っておられ、すべてを見通しておられます。私以上に私を知っておられ、あなたはすべてを行うことができ、私を愛しておられます。

私の御父よ、私たちがいつもあなたに頼ることはあなたの願いですから、イエスとマリアとともにあなたにお願いいたします...（ここで自分が望む恵みを願う）。

この意向のために、信頼を持ってイエスとマリアの最も聖なる御心に自分を合わせ、私のすべての祈り、犠牲、苦行、すべての行動、そして私の義務への一層の忠誠をあなたに捧げます(*)。

私に聖霊の光と恵みと力を与えてください。

決して聖霊を失うことなく、聖霊を悲しませることなく、聖霊の力が私の中で弱まることのないようにこの聖霊において私を強くしてください。

私の御父よ、私はこのことをあなたの御子イエスの名においてお願いいたします。そして、イエスよ、あなたの御心を開き、そこに私の心を置き、マリアの御心とともに、私たちの神聖な父にそれを捧げてください。私のために必要な恵みを得てください。

神聖なる父よ、すべての人をご自分のもとに呼び寄せてください。世界中の人々があなたの父なる善意と神なる御慈悲をたたえるようにしてください。

私の優しい父となり、あなたの目の瞳のように、どこにいても私を守ってください。そして、私をいつでも立派な息子、娘になるように私をあわれんでください。

神聖なる父よ、私たちの魂の甘美な希望よ、
あなたがすべての人に知られ、尊ばれ、愛されますように。

神聖なる父よ、すべての民に注がれる無限の善よ、
あなたがすべての人に知られ、尊ばれ、愛されますように。

神聖なる父よ、人類への慈悲深い露よ、
あなたがすべての人に知られ、尊ばれ、愛されますように。

マザー・ユージニア

Indulgenza parziale (部分免償)

モンシニョール・J. ジラルール、S.M.A.

カイロ使徒座代理司祭
1935年10月9日

ジャン・ヴェルディエ枢機卿、P.S.S.

パリ大司教
1936年5月8日

(*) この祈りをノベナとして唱える場合は、「私はこの9日間、特にこのような状況下で、このような人に、より寛大になることなどを約束します...」と付け加えましょう。

御父のロザリオの祈り

「御父のロザリオの祈り」は、その5つの神秘において、神の摂理が私たちに与えてくれた祈りです。そこには、創造の初めから最後の贖罪に至るまで、御父の愛に導かれ、御父の命の計画を成し遂げ、また成し遂げる人間の歴史が記されています。

このロザリオは時代のしるしであり、「大きな力をもって」（マタイ 24：30）イエスの地上での再臨を目撃しているこの時代のものです。"力"は御父の卓越した属性です（「天地の創造主、全能の父なる神を信じます」）。イエスを通して来られるのは御父であり、私たちは熱心に待ち望まれる新しい創造の時代を早めるよう、御父に促さなければなりません（ローマ 8：19）。

しかし、マリアのロザリオの祈りを御父のロザリオの祈りに置き換えてはなりません。むしろ、20の神秘からなるマリアのロザリオの祈りをすべて唱えた後、私たちは聖なる母に、御父がこの地上に御国をもたらすのを急がれるように、私たちと一緒に御父のロザリオの祈りを唱えてくださいとお願いしなければなりません（ルカ 11：2）。

御父は、「主の祈り」が唱えられるごとに、何十人もの魂が永遠の呪縛から救われ、何十人もの魂が煉獄から解放されることを約束しておられます。御父はロザリオの祈りを唱える家族に非常に特別な恵みを与え、その恵みを代々伝え続けてくださいます。信仰をもってロザリオの祈りを唱えるすべての人は、教会の歴史に一度も目撃されたことのないほど多くの、そして偉大な奇跡を受けるでしょう。

どのように祈るのですか？

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

神よ、私を助けに来てください。

主よ、私を助けるために急いでください。

栄光は父と子と聖霊に。初めのように今も、いつも世々に。アーメン

私の良き父よ、あなたに私自身を捧げます。

守護の天使よ、主の慈しみによってあなたに委ねられた私を照らし、守り、支え、導いてください。アーメン。

各神秘の初めに「神秘」を音読します。短い黙想の後、「アヴェ・マリアの祈り」を1回、「主の祈り」を10回、「栄唱」を1回祈ります。ロザリオの各神秘の終わりには、「私の良き父よ...」、「守護の天使よ...」この2つの祈りを繰り返します。ロザリオの最後に、御父の連禱と、「父よ、私はあなたの御手に自分を委ねます」または「父よ、地球はあなたを必要としています」という祈りを捧げます。

第一の神秘では、アダムとエバが罪を犯した後、エデンの園で御父が救い主の到来を約束されたときの御父の勝利を黙想します。

主なる神は、蛇に向かって言われた。このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に私は敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。（創世記 3：14-15）

第二の神秘では、神のお告げを受けるマリアの「フィアット」（受胎告知）の瞬間の御父の勝利を黙想します。

天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「私は主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」（ルカ 1:30 以降）

第三の神秘では、ゲッセマネの園で御父がご自分の全権を御子に委ねられたときの勝利を黙想します。

「イエスは祈られた。父よ、御心なら、この杯を私から取りのけてください。しかし、私の願いではなく、御心のままに行ってください。」すると、天使が天から現れて、イエスをカブけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴のように地面に落ちた（ルカ 22:42-46）。それから、弟子たちのところに戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。立て、行こう。見よ、私を裏切る者が来た」（マタイ 26:45-46）。イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。彼らが「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「私である」と言われた。イエスが「私である」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。（ヨハネ 18:4-6）

第四の神秘では、あらゆる個々の裁きの瞬間での御父の勝利を黙想します。

そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。「お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。」しかし、父親は僕たちに言った。「急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。」そして、祝宴を始めた。（ルカ 15:20-24）

第五の神秘では、最後の審判の瞬間に御父が勝利することを黙想します。

私はまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更に私は、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、私は玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものとは過ぎ去ったからである。」（黙示録 21:1-4）

そして、教皇のために「元后あわれみの母（サルヴェ・レジーナ）」、主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱を祈ります。

御父の連禱

無限の威厳ある御父	我らをあわれみ給え
無限の力の御父	同上
無限の善の御父	同上
無限の優しさの御父	同上
御父、愛の深淵	同上
御父、恵みの力	同上
御父、復活の輝き	同上
御父、平和の光	同上
御父、救いの喜び	同上
御父、最高の御父	同上
無限のあわれみの御父	同上
無限の輝きの御父	同上
御父、絶望する者の救い	同上
御父、祈る者の希望	同上
御父、すべての悲しみを包む番人	同上
御父、あなたの最も無力な子らのために	同上
御父、あなたの最も絶望的な子らのために	我らは乞い願います
御父、あなたの愛されない子らのために	同上
御父、あなたを知らない子らのために	同上
御父、最も悲しみの深い子らのために	同上
御父、あなたの最も見捨てられた子らのために	同上
御父、最も苦しむ子らのために	同上
御父、あなたの王国の到来のために戦うあなたの子 らのために	同上

祈りましょう。

父よ、あなたの子供たちのために、あらゆるあなたの子供たちのために、切にお願いいたします：あなたの御子イエスの御血および聖母マリアの悲しみの御心の御名において、平和と救いをお与えください。アーメン

父よ、あなたの御手にこの身を委ねます

父よ、あなたの御手に身を委ねます、あなたの御心の通りに私をお使ってください。

あなたがどのようになさるとも、私はあなたに感謝します。私は全てを受け入れる覚悟です。

あなたの御心が私のうちに、そしてあなたのすべての被造物のうちに成されますように。

主よ、これ以上望むことはありません。あなたの御手に私の魂を捧げ、心からの愛を込めてあなたに捧げます。主よ、あなたを愛しているからこそ、限りない信頼をもって遠慮なくあなたの御手に自分を捧げ、身を委ねる必要があるのです。

(シャルル・ド・フォーコー)

父よ、地球はあなたを必要としています

「父よ、地球はあなたを必要としています。

人類も、私たちは皆、あなたを必要としています。

重く汚染された空気、それはあなたを必要とします。
親愛なる父よ、あなたに懇願します。世界の通りを歩き回りにお戻りください。
あなたの民のうちに生きにお戻りください。
国々を導きにお戻りください。
平和と正義をもたらすためにお戻りください。
私たちが悲しみによって贖われ、あなたのうちに新しい被造物となるようにあなたの愛の炎
をもたらしにお戻りください。」

(マリア・テレサ・ダベナンテ)

教会の承認済み
†ジュゼッペ・カサーレ
フォッジャ大司教
1988年11月23日

父よ、お与えください

父よ、絶えず愛したいという深い願望を私にお与えください。
過ぎ去る一瞬ごとに、私はもはや愛をもって生きることができないことを理解させてください。
私が無駄にした時間、無駄にできる時間のすべてに対して深い苦しみを感じさせてください。

父よ、私の精神が愛のうちに生き続けられますように。そして私の体が混乱するときでさえも、私の精神があなたを愛し続けることができますように私の精神に命じてください。
そして、あなたのうちで、あなたとともに、あなたのために、私は全宇宙を、私が出会うあらゆる被造物を愛せますように。

父よ、私の望みはこれだけです。
そして、愛の欠如の影さえも私の霊を暗くしないように、そして、私が死を迎える瞬間に霊を見るとき、それがあなたと同じ光で輝いているのを見て喜ぶことができますようにとお願いいたします。

(マリア・テレサ・ダベナンテ)

教会の承認済み
†リカルド・ギーザル・ディアス
トラルネパントラ司教
2009年1月7日

2014年12月8日 出版

Pro Manuscripto - 非売品